

1. 議事日程（第10日目）

日程第 1 一般質問

1. 北垣 潮君

- (1) 姫戸町・龍ヶ岳町の町史編さんについて
- (2) 子どもの遊び場について
- (3) イノシシ対策について
- (4) 国道266号線及び市道の整備について
- (5) 上天草総合病院について

2. 田中 万里君

- (1) 次期市長選挙について
- (2) 観光について
- (3) 議会事務局長の役職について

3. 宮下 昌子君

- (1) 地域振興策について
- (2) 国民健康保険について
- (3) 新年度予算について

4. 川口 望君

- (1) 自殺対策について
- (2) 農業振興について

---

2. 本日の出席議員は次のとおりである。（21名）

議長 堀江 隆臣

1 番 平田 晶子	2 番 何川 雅彦	3 番 田中 辰夫
4 番 須崎 光枝	5 番 宮下 昌子	6 番 西本 輝幸
7 番 高橋 健	8 番 小西 涼司	9 番 島田 光久
10 番 川口 望	11 番 田中 万里	13 番 北垣 潮
14 番 園田 一博	15 番 窪田 進市	16 番 津留 和子
17 番 桑原 千知	18 番 渡辺 勝也	19 番 田中 勝毅
20 番 蔭塚 安親	21 番 新宅 靖司	

---

3. 本日の欠席議員は次のとおりである。(0名)

なし

---

4. 会議事件説明のため出席した者の職・氏名

市長	川端 祐樹	教育長	鬼塚 宗徳
総務企画部長	永森 良一	市民生活部長	佐伯 秀昭
建設部長	尾上 徳廣	経済振興部長	坂中 孝臣
教育部長	村枝 誠二	健康福祉部長	杉田 省吾
会計管理者	杉田 良一	上天草総合病院事務長	松本 精史
水道局長	松本 和任	総務課長	橋本 秀雄
財政課長	竹下 学		

---

5. 職務のため出席した者の職・氏名

議会事務局長	森内 孝生	局長補佐	野崎 秀満
主事	川端 彰		

---

開議 午前10時00分

○議長(堀江 隆臣君) おはようございます。これより会議を開きます。

議事日程はお手元に配付してあるとおりでございます。

本日は最終日の一般質問を行います。

---

日程第1 一般質問

○議長(堀江 隆臣君) 一般質問の通告がっておりますので、順次発言を許します。

13番、北垣潮君。

○13番(北垣 潮君) おはようございます。渡部陽一ではありません。13番、北垣潮です。

今回、姫戸町・龍ヶ岳町の町史編さんについて、子どもの遊び場について、イノシシ対策について、国道266号線及び市道の整備について、上天草病院について、5項目を上げていましたが、逆に5番目のほうから質問していきます。

9月議会の一般質問の後、龍ヶ岳小学校建設について、教育部長の答弁と違う動きで龍ヶ岳小

学校の建設が進んでいるということに対して、答弁には責任を持ってもらいたいということと、説明責任を果たしてほしいということを申し上げておきます。

まず上天草総合病院について、現在、上天草総合病院が建っている埋め立て地は、上天草病院をつくるということで漁業組合員は賛成したが、病院以外に体育館ができ、また、公の施設ではないイリコの加工工場までできました。埋め立て地の現在の名義人はだれになっていますか。

○議長（堀江 隆臣君） 病院事務長。

○上天草総合病院事務長（松本 精史君） おはようございます。

まず最初に、日ごろより病院事業に関しまして、議員の皆様方の御支援、御協力を賜り、感謝申し上げているところでございます。

まず、名義の件でございますけれども、埋め立て地1万5,486平米でございます。一部個人所有地がございますが、そのほかは旧龍ヶ岳町の所有地でございます。その後、合併に伴いまして上天草市の名義ということになっております。

以上でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） 個人の所有地があるということですか。済みません、私もこれについては漁協の総会で聞いたことがあったんですけども、そのとき、その個人の所有地の人が町から借りているという返事があったわけです。それで何かおかしいと思って今回聞いたわけです。病院を建てるために埋め立てしたんですから、本当は病院を建てるのが本当ではなかったかとも思うんですけども、龍ヶ岳町のときには何でもありというようなこともありましたので、この点については今後またほかの機会に意見を言っていきたいと思っております。ありがとうございました。今までわからなかったものですから、一応今回聞きました。

それから、御所浦とかからのお客さんのために船着場に常時駐留しているというか、漁船が棧橋につけてあるんです。御所浦からの船とかが病院に来たとき邪魔になるというか、私は龍ヶ岳町時代にも言ったんですけども、これを移動してもらうわけにはいけないのかということをお願いします。文教厚生常任委員会も病院は管轄でありますので、ぜひとも管轄といいますか、厚生常任委員会のほうでもこの辺は見てもらいたいと思っております。漁船を移動してもらうことはできないでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○経済振興部長（坂中 孝臣君） 病院の事務長から私に答えるようにという依頼もありましたので、議員が申されたことについてお答えをしたいと思います。

私も見に行きましたけれども、棧橋の両側に網船が常に係留してございます。それによりまして、どうしても貸し切り船の係留に支障を来しているという現状でございます。棧橋は漁獲物の荷揚げのために設けられた施設でございますので、漁船といえども不適切な使用の仕方はいけませんので、今後担当課の農林水産課であります私たちのほうから指導をしてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） 漁船側としては、漁港だから貸し切り船より我々が優先という気持ちがあると思いますけれども、御所浦から来られる人はほとんど漁民の人が多いということで、貸し切り船だけではなくて漁船でも来られるわけでありますので、病院に来られる人の利便性を図って、ぜひとも改善してほしいと思います。

それから病院について、熊本あたりの産婦人科の部屋はホテル並みの部屋があるんです。産婦人科というのは新しい命が誕生する場所ですので、上天草病院も熊本のホテル並みにはいかないでしょうけど、ほかの病室とちょっと改善していいのではないかと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 病院事務長。

○上天草総合病院事務長（松本 精史君） お答えいたします。

議員から、平成20年9月議会でも同様の御質問をいただいております。議員御指摘につきまして大々的に改装したと申し上げたいところではございますが、病院全体で見ますと医療機器の購入、修繕、施設の維持管理並びに看護学校、老健施設等の改修の予算が必要となっておりますので、大幅に部屋を改修するには至っていない状況でございます。病院自体も20年経過しておりますので、壁紙、床等の損傷もかなり進んでおりまして、優先順位をつけまして改修をしているところでございます。

また、清掃業務について清潔感を保つように努めているところでもございます。

今後、改修面につきましては優先順位をつけまして、なるべく議員御指摘の産婦人科のところをホテル並みとまではいかないかもしれませんが、少しずつでも改修していきたいと思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） 先ほど、一般質問の前に少し時間があつたものですから、一般質問をちょっと書き加えておりましたら、平田議員から、診察室の声が待合室で待っている人たちに聞こえる、その辺も改善してほしいという話がありましたが、その辺はどうでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 病院事務長。

○上天草総合病院事務長（松本 精史君） わかりました。その点は注意して今後対応させていただきます。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） 次に、上天草市職員の上天草病院での人間ドックの利用者数は全体の幾らぐらいでしょうか。総務企画部長にお伺いします。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） おはようございます。今年度の人間ドック受診者の予定者数は254名であります。このうち、上天草総合病院の受診者は約16名で、全体での割合は

6.3%となっております。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） 利用された方で、なぜ上天草総合病院を利用されるのかということと、利用されない方はどこの病院を利用されているのか。それから、なぜ上天草総合病院を利用されないのかという3点をお願いします。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） まず利用者の声ですが、自宅から近いということ、それと食事が非常にいいということ、それと検診の待ち時間が少ないという意見がございます。

それと、どうして少ないかということですがけれども、やはり地元ということでありまして、いろいろプライバシーの情報という部分がございます。顔見知りの職員が多い、あるいは病院に行きますと地域の方とお会いして、きょうは何のために来たのかと聞かれると。どうだったのかというような部分まで聞かれるケースもあるみたいです。そういうことで、やはり人間ドックというのは病気の早期発見ということが目的ですので、やはり思わぬような病気にかかったとした場合、それを身近である病院に知られたくないというのは人間の本能ではないかと思うんですが、そういう部分が働いております。

では、どこの病院を利用しているかということなんですけれども、受診者の8割程度が熊本市の済生会病院、それと日赤等を利用しております。もちろん本渡の中央総合病院なりも人間ドックの利用者があっております。

そういう状況でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） では、このプライバシーという点を改善すれば、上天草総合病院を大幅に今後利用できるということも考えられますか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） さきの決算特別委員会の中で、どうして利用者が少ないのかという御質問をいただきまして、私はその際に、アンケート調査等をして利用促進を促すというようなことを申し上げております。

それで、人間ドックの申込時期というのをいつも2月ごろ行います。来年の2月に23年度の希望を出すわけですが、その際にまず1点目として、できるだけ上天草総合病院を使ってくれということの呼びかけ、それと今おっしゃいました、非常にプライバシーにもかかわることですので、そこがどの程度理解していただいてクリアできるかわかりませんが、これは私があえて申し上げる間でもなく、病院側では院長以下全職員が守秘義務という部分は当然担っているわけで、改めて言う必要はないかと思いますが、やはり個人にしますと、そういう部分がどうしてもあるというのが現実であります。ですから、秘密の保持について徹底していただくことはもちろんですけれども、そういうことも踏まえた中で地元の総合病院を利用しても、ほかの病院と比較した場合に何ら遜色はないということ、2月の希望を出す前に職員に周知はしたいと思っております。

す。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） 病院の事務長にお願いといいますか、やっぱりプライバシーという点が改善されれば職員の受診者もふえるのではないかと思うわけでありますので、ぜひとも改善されるようにお願いします。

議会報告会でも、上天草総合病院についての意見がありました。松島アロマの会場では、上天草総合病院への交通アクセスをもっと整備する必要があるとか、龍ヶ岳の大道老人福祉センターの会場では、大矢野地域バスが本格運行と広報に掲載されていた、観光循環バスとは別なのか。バスはさんぱ一から三角病院となっていたが、市立病院は上天草総合病院なのでそちらのほうも宣伝して路線の検討もしていただきたい。また、樋島の老人福祉センターの会場でも大矢野、松島の人たちから上天草総合病院へ通院したいとの希望がふえたが直行するバスが少ない。循環バス以外にも大矢野、龍ヶ岳をつなぐバスが必要だと思うなど、通院バスルートの整備の意見がありました。

新市建設計画の重点プロジェクトになっております上天草総合病院への通院バスルートの整備はどうなっていますか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） きこのうの一般質問に対してもお答したんですけれども、まず一つは合津のバス停がございまして、ここから姫戸港折り返しという一つの系統がございましたけれども、これを上天草総合病院まで延ばしました。もう一つは、上島地区のバスの再編の中で、本渡、教良木、松島という系統を、教良木地区を拠点にして、それに枝をつけまして、教良木からでも上天草総合病院に直行便が走っているという状況はつくっております。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） 先日、大矢野町に住まわれている方が、この前、上天草総合病院に入院してきましたと言われました。私も言われる前にといい、接遇が悪かったのでしょうかと言いましたら、とんでもない、いろんな病院に行ったけれども、看護師さんもお医者さんも優しく親切で大変よかったですよと。確かに以前はそういうこともあり、改善していますとの張り紙もしてあり感心しましたとのことで、周囲の人たちにもいい病院ですよと宣伝しているんですよとのことでした。

次に、国道266号線の整備についてお聞きします。

今、天草の国道の中で一番国道らしくない国道は、上天草市内では白浜から東風留の区域だと思います。ここはいつも徐行して通らなければいけないようなところでありまして。20年ぐらい前に、この地域の人を集めて説明会とかもあつたそうでありましてけれども、ここの整備計画はどうなっていますか。

○議長（堀江 隆臣君） 建設部長。

○建設部長（尾上 徳廣君） おはようございます。まず、1点目の国道266号白浜から東風

留線整備についてお答えいたします。

この白浜地区につきましては、下貫橋から東風留地区、現在事業認定を受けている間なんですけれども、旧町時代に県当局から地元説明会を開催いたしました。ところが、白浜団地が47災の集団移転地でありまして、非常に厳しい意見が出て断念しなければならない事態になりました。それで、白浜地区埋め立ての線形自体が、現国道沿いすべてがかかるような線形でございました。地元住民から47災でせつかく安全な場所に移ったところをまた移るのかと厳しい意見で、旧町時代の町長が断念したわけでございます。

そこで、県当局に打ち合わせいたしましたところ、山側に線形をとったルートがほぼ完成をしているということで、明けて1月中旬ぐらいに地元説明会を開催されるということでお聞きしました。それで納得していただければ、23年度中にも用地交渉に入りたいという県の答弁でございました。

以上です。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） 上天草市の重点プロジェクトの中にも域内30分圏構想というのがあります。266号線を早急に整備し、上天草総合病院への公共交通機関の充実を図りますとあります。高戸バイパスもある程度でき上がっておりますので、なるべくこの辺の整備を急いでしてほしいと思います。

それから、高戸バイパスの完了はいつごろですかという質問をしておりますけれども。

○議長（堀江 隆臣君） 建設部長。

○建設部長（尾上 徳廣君） お答えします。現在改良中の上天草総合病院の前から脇浦埋め立て地の場所までですけれども、一応目標は24年度中に供用開始する予定でございます。現在、脇浦団地の整備を進めていますけれども、順次整備が終わり次第、一部供用を開始する予定ということでございます。

以上です。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） この高戸トンネルを掘った後、土砂の運搬により現在の国道でありますところが子どもたちの通学路になっておりますけれど、相当に傷んで水たまりとかができておりますので、それらの整備はどうなっていますか。

○議長（堀江 隆臣君） 建設部長。

○建設部長（尾上 徳廣君） 現道の国道の傷みは、私も通勤するときいつも通っているわけでございますけれども、市長のタウンミーティングがあったときも東風留地区の皆さんから非常にそういう意見がでましたので、早速県当局に要望を出しております。

以上です。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） 市道白浜団地のことですがけれども、私も何回か一般質問してきました

たけれども、ここの舗装道路が油分が流れて石が突き出てしまった状態で、けがされる人が何人もおられるわけですから、その整備はどうなっていますか。

○議長（堀江 隆臣君） 建設部長。

○建設部長（尾上 徳廣君） 白浜団地内の整備ということでございますけれども、以前、北垣議員から御指摘を受けまして、住民の方がつまずいて転んでけがをされたということで、私も建設課長時代に現場を踏査したところでございます。現在の計画によりましては、2カ年で舗装を約400メートルほど実施しております。今後もそういう傷みの激しいところがあるならば、計画を立てて実施していきたいと思っております。

それと、白浜の水路の整備ということでございまして、水路にかかっている床版の整備も含んでよろしいのですか。

○13番（北垣 潮君） はい。

○建設部長（尾上 徳廣君） そこは、今年度中に整備するように計画を立てております。

以上です。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） 白浜の人たちが、とにかく早くこの道路をしてほしいということを訴えられます。本当は区長さんが要望書とかを出せば一番で、こうして言わなくて済むんですけれども、その要望書を書いたりとかが苦手な区長さんでありますので、ぜひともよろしく願います。

次のイノシシ対策については、川口議員にお願いしたいと思ひまして、子どもの遊び場について質問します。

上天草市内には滑り台、ブランコ等の遊具が設置されている遊び場は何カ所ありますか。

○議長（堀江 隆臣君） 教育部長。

○教育部長（村枝 誠二君） 社会教育課で把握、管理している児童公園及びほかの部署で管理する公園の合計で32施設ございまして、そのうち遊具が設置されているのは26施設となっております。

各施設を申し上げますと、社会教育課管理で20施設、うち遊具施設が19施設。農林水産課管理で6施設、遊具施設が4施設。建設課で管理が2施設、遊具施設が1施設。そして商工観光課管理で1施設、遊具施設が同じく1つでございます。それと都市整備課管理で1施設、遊具施設があるのが1施設でございます。また、熊本県管理では2施設がございまして、遊具施設があるのが1施設となっております。

以上でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） それらの施設の1日当たりの利用者はどれくらいですか。

○議長（堀江 隆臣君） 教育部長。

○教育部長（村枝 誠二君） 利用者の数は把握はしておりませんが、少なくとも地域の



子どもたちの遊び場として機能はしていると思っております。

以上でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） 私もずっと見て回ったんですけれども、ほとんど利用されていないところが多いわけです。身近なところは利用があるんですけれども、山の上だったり、そういうところが一番あるわけでありまして。その付近はやっぱり改善する必要があると思います。

この間も千巖山に登ったんですけれども、そこにも遊具施設のブランコとか滑り台とかがありました。そこはイノシシの遊び場になって、イノシシがそれを使っているのではないかと思った次第であります。

横にはパライズストローリーという、地元のおばちゃんたちも歩いて行っているのですが、引っかかって舌を巻いて読むことができないようで、パライズ何とかって、ハライタとか何とかって、こういう横文字があんまり多過ぎると私は思います。市民の人たちも、せっかく上天草なのに日本語を使ったらよいのではという声がいっぱいあります。パライズストローリー停留所も横にありました。確かにイノシシさんたちにとっては、上天草はパライズかもしれません。しかし市民にとっては、天草島原の乱の前と同じような、本当に厳しい状況であります。

それから、それらの施設は幾らぐらいでできているかとも聞いておりましたけれども、ほかに傾斜の緩い幼児用の滑り台や柔らかい素材でできたクッションなど、けがの心配の少ない遊具を設置した公園の整備は考えておられませんか。

○議長（堀江 隆臣君） 教育部長。

○教育部長（村枝 誠二君） キッズといいまして、若い子どもたちの遊園地の計画ということでございますけれども、現在、社会教育課ではそういった計画は今のところしておりませんが、今後はやはり検討すべきだろうと考えております。

以上です。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） ぜひとも検討してほしいと思います。

龍ヶ岳町の高戸小学校から、休日の子どもの遊び場として保育所とかの運動場の利用の要望はなかったでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 教育部長。

○教育部長（村枝 誠二君） 今のところそういった要望は上がってきておりません。

以上でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） 保育所とかには何か校長先生がお願いに行かれたという話も聞いております。以前は、高戸小の子どもたちは、クラブ活動する前の子どもなんですけれども、その子どもたちは東風留の遊び場に来てボールを使った遊びをしておりました。しかし、最近グラウンドゴルフの人たちが遊ぶようになってから、子どもたちの姿を私も3カ月以上ぐらい見

ておりません。

もともと東風留集会所の裏に遊具を整備した子どもの遊び場があったのですが、病院の先生の住宅を建設するというので、子どもたちは追い出されました。私が我が身も振り返らず議員に立候補したのは、整形外科の先生を迎えるために子どもの遊び場に医師住宅をつкнуったのが原点であります。おかしいと思って出たのであります。その後、議員になり、早速近場に遊び場ができたのですが、グラウンドゴルフの人たちが、子どもが通学する時間にもしておられるということで、子どもたちにとっては大人というのは大きく見えて、やっぱり大人たちには何も言えないというような感じで現在に至っていると思います。そういうことでもありますので、遊び場に、子どもたちの遊び場という看板をつけてほしいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 教育部長。

○教育部長（村枝 誠二君） ただいまの御質問は、恐らく東風留の港湾区域の広場に対する質問であると思います。この質問の場所は樋島港湾区域で建設部の所管となっております。ただいまの件につきましては、後で建設部長が答弁をしたいと思います。

ただいまの公民館全般に対しての看板設置の質問ということでございますけれども、教育委員会で管理しています公園は、利用対象者等の明確な規定はありません。そういったことで、公園の利用につきましては制限すべきものではないと思いますので、そういった看板の設置は今のところは考えておりませんが、今後やはりまた検討していく必要があると考えております。

以上でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） 私も一度注意したことがあったんですけども、子どもが遊んでいない時間にすればいいだろうということでその人たちは言われました。しかし、だんだん自分たちが土を入れたり、何か整備していかれるものだから、子どもたちも入れなくなったような感じであります。本当は私も子どもの遊び場として確保してもらったわけでありますので、ぜひとも何とかしてほしいと思います。建設部長が何か答弁されるということでありますので、よろしくをお願いします。

○議長（堀江 隆臣君） 建設部長。

○建設部長（尾上 徳廣君） 御指摘の場所は、東風留集会所の前の埋め立て地でしょうか。あの埋め立て地については、教育部長が申したとおり、建設部所管の管理で行っております。そこで、大人の遊び場というのはゲートボールのことで解釈はいいのでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） 最初、集会所の裏にあったときは、ゲートボールの人たちが占領していたのですが、ゲートボールの人はほかに移って、今度はグラウンドゴルフの人たちがされています。

○議長（堀江 隆臣君） 建設部長。

○建設部長（尾上 徳廣君） わかりました。今のところ、我々は行政区に対して無料で開放し

ておるわけです。そのかわり雑草とかの管理をしてくださいと。その点、東風留区の区長に申し出て、時間帯ではできないかと、子どもが使用するときは子どもの遊び場として、また学校とか行かれるときはその時間帯にゲートボールといいますか、グラウンドゴルフ等を行っていただきますように指導をしたいと考えております。

以上です。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） 私は、子どもの遊び場としてお願いをして、金網もきちんと設置してもらったんです。その辺もちょっと酌んでほしいと思います。本当は、集会所の場所も東風留の地域の人たちで埋めて場所ができました。そして、今病院の先生の住宅のところも以前は砂浜で子どもたちの遊び場だったんです。ということで、あそこの埋め立てをするときは、東風留地区にその土地はやるということで、その同意のもとに埋め立てはできたわけです。今現在、上天草市の土地になっていると思いますけれども、私は龍ヶ岳町するときにも言ったんですけれども、これは本当は東風留地区の名義に変更するのが本当ではないかと思っておりますけれども、その辺についていかがでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 建設部長。

○建設部長（尾上 徳廣君） 旧町時代は北垣議員の御指摘のとおり、龍ヶ岳町ありきではなかったかといろいろ言われていますけれども、その点は病院のほうも非常に医師不足で困られたみたいで、どうしても医師住宅を建設したいと。その旨、地区にも説明会を実施して建てたと聞いております。東風留地区の土地を、今は上天草市所有になっているということであれば、その埋め立て地区の場所でも10年間したら登記移転は可能でございますので、その点も考慮して前向きに検討していきたいと考えております。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） 龍ヶ岳町史の中にも、地区の人がつくったということも出ておりますので、よろしく申し上げます。

次に、龍ヶ岳町・姫戸町の町史編さんについて質問します。龍ヶ岳町・姫戸町の町史編さんについては、私は今回3度目の質問になります。1回目は平成16年12月議会の、12月9日の一般質問になります。当時の平林教育長は、大矢野町史が18年度に完成予定でありますので、平成19年度以降に市史編さん審議会及び文化財保護委員会等の意見を参考にして、龍ヶ岳町編・姫戸町編及び松島町編に順次取り組む予定にしておりますとの答弁でありました。松島町史は昭和62年に発行されておりますので、その後の町史の編さんと思います。

2回目に町史編さんの一般質問をしたのは、20年9月10日の一般質問になります。今回の一般質問の通告書には、川端市長になってから財政が厳しいからできないということを書いておりますが、当時の会議録を見ますと、教育部長の答弁は、大矢野町史に7,440万円かかり19年度に終わりました。21年度の実施計画ではありますが、財政問題を一番気にされた答弁でございました。それがことしになって、22年3月30日に市史編さん審議会が開催され、次

回は8月と決められていたが、いまだに2回目の審議会が開かれないのはなぜでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 教育部長。

○教育部長（村枝 誠二君） 3月の市史編さん審議会の開催後は、編さん委員会を構成する委員さんの選出につきまして、担当者が時間をかけまして情報収集を行ってきましたが、なかなか町の文化、歴史に知識を有している委員さんになっていただく方々の人選がうまくいかず、現在に至っている状況でございます。8月に審議会の会議を開催できなかった状況を、審議会の委員さんの方々にもお知らせすべきであったと深く反省をいたしているところでございます。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） 部長、課長は前任者からどの程度の事務引き継ぎをしたのかということをお願いします。

○議長（堀江 隆臣君） 教育部長。

○教育部長（村枝 誠二君） 事務引き継ぎは、職員服務規程第23条により、担当事務の変更等の場合は、その担当する事務を、上司の指示を受け、遺漏なく後任者またはその代理人に引き継がなければならないとなっております。当時、事務の文化振興係の担当者の業務変更はありませんでしたので、担当者間の事務引き継ぎはありませんでした。また、部長、課長の事務引き継ぎにつきましては、処分未了事務、未着工事項、将来企画すべき事項を引き継ぐことになっております。この市史編さん事業に関しましては審議会が本年3月に開催され、既に事務が進行していることから、部長、課長間での事務引き継ぎは行われておりませんでしたので、報告いたします。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） やっぱり次回が8月と決められていたのに、まだ審議会が開かれていないということは、職務怠慢ではなかったかという声もありますけれども、本当にやる気があるのかという声もあります。この重大な事業を、市の総務課も全然知らなかったという報告もいただいておりますけれども、庁内の部長会議、課長会議はどうなっているのかお聞きします。

○議長（堀江 隆臣君） 教育部長。

○教育部長（村枝 誠二君） さきに述べましたとおり、姫戸・龍ヶ岳地区の委員の選出に手間取りまして、その結果としてただいま報告しましたとおりでございます。また、議員が職務怠慢ではないかと言われておりますけれども、北垣議員さんも市史編さん審議会の委員でございます。御承知のとおり、この市史編さんの業務は着工から完成するまでに約5年間という長い年月を要する業務内容でございます。職員は自分の職務に責任を持って、それなりに日々業務に励み、市史編さんの完成に向け計画を立て取り組んでいるところでございますので、よろしく御理解をいただきたいと思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） 今まで全然なくて、自分たちの責任を我々に押しつけるのもどう

かと思うわけであります。きちんと仕事はしてほしいと思います。

総務企画部長は、このことについてはどの程度御存じでしたか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） その前に一つだけ御報告をしておきます。この審議会のメンバーでございますある方が先般、天草四郎に関する書物と申しますか、読本を刊行されたわけでありまして、これを無料で持って来られまして、そのときにうちの総務課長が対応をしております。その際、二人のやりとりの中で、総務課長が知らなかったという先ほどの議員の御指摘の点なんですけれども、総務課長が勘違いをして知らなかったということで、この市史編さんの重要性あるいは緊急性等は十分熟知しております。それはなぜかと言いますと、総務課長は旧町時代に社会教育の職歴が約9年ほどございます。私自身も6年ございます。そういう中で、町史編さんに早急に取り組むべきだということ、それはどういうことかと言いますと、郷土史家といわれる方たちが何人かいらっしゃいました。膨大な資料を収集され、調査、研究されております。ところが今になって、その郷土史家といわれる方たちがほとんどお亡くなりになっております。ですから、そういう点は私も総務課長も十分認識しておりますので、誤解のないようお願いをしたいと思います。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣君。

○13番（北垣 潮君） そういうこともあってから、私もずいぶん前から市史編さんに取り組むようにということを言ってきましたけれども、なかなか財政が厳しいということでおくれたかと思えます。確かに財政も大事と思えます。初日に財政については高橋議員も質問されておりましたけれども、小林虎三郎という方を御存じとは思いますが、明治3年に戊辰戦争で壊滅して日々食料にも窮していた長岡藩に、支藩の三根山藩から米百俵が送られてきました。市民をあげて大喜びして分けてくれと迫り、ある者は刀を突きつけて迫ったそうですが、大惨事のそこにいた小林虎三郎は米百俵を将来の千俵、万俵として生かすために、学校建設に使いました。実際は学校の修復に使ったようであります。

いつか桑原議員がこういうことを言っておられました。きょうを楽しむ者は花を生けよう、1年先を楽しむ者は花を植えよう、20年、30年先を楽しむ者は木を植えよう、100年先をおもむかる者は人を育てよう。確かに財政は厳しいんですけれども、これは文化でもありますし、市史編さんということは大事な仕事であります。

論語の中にも温故知新という言葉があります。子曰く、故きを温めて新しきを知れば以て師たるべし。温めるということは、肉をとろとろ煮詰めてスープをとることだと言われております。

そういうことでありますので、確かに財政は厳しいと私は思います。それでも、教育と同じことでありますので、ぜひともやり遂げてほしいと思います。

フランスやイギリスの大統領は、1に教育、2に教育、3に教育と、そういう言葉を連発しておられます。また、アメリカもそうであります。しかし、日本の首相はそうではありません。経済ばかりであります。

上天草市の財政が再建されたということで高橋議員が言っておられましたけれども、私は決して財政はよくなったとは思っておりません。熊本県の14市の中で最低であります。20年度は経常収支比率で、14市の中で一番悪かったのは95.6%の天草市でありました。上天草市は95%で、上天草市より悪かったのですが、21年度になって天草市は89%、上天草市は91.7%であります。

合併特例債の切れる前に、箱ものとの声が上がっていますが、それよりも私が心配するのであります合併特例法による地方交付税算定上の特例として、10年間の13億5,000万円が平成24年で終わり、1年目に1億3,000万円カット、2年目に2億6,000万円と段階的に減り、5年間で13億5,000万円の地方交付税カットになります。特例期間終了後に大幅な地方交付税が削減されることになります。そのことも考えて財政再建の道を進んでほしいと思います。

それから、一番初めに言いましたけれども、龍ヶ岳小学校の建設については設計の段階から龍ヶ岳地域の人たちの声を聞いて、地元の木材を利用してつくるという答弁でありましたけれども、今度はコンクリートでつくると。PTA会長さんたちが行ったら、あなたは議会広報にはああいふうに書いているけれども全然違ふと、そういうことでありました。

公共建築物における木材の利用の促進に関する法律というのができました。木材を利用すれば、2分の1以内の補助が出るそうであります。決して龍ヶ岳地区の人たちはお金のかかった建物を望んでいるわけではありません。小学校も中学校も一遍につくるという計画もありましたけれども、龍ヶ岳のPTAの皆さんは財政課を呼んで、本当にそれをつくって大丈夫かという話も聞かれたそうであります。決して龍ヶ岳の人たちはそういうことを望んでおられませんので、ぜひ龍ヶ岳地域の人たちの声も聞いて、学校建設をお願いします。

以上で質問を終わります。

**○議長（堀江 隆臣君）** 以上で、13番、北垣潮君の一般質問が終わりました。

ここで、10分間休憩いたします。

休憩 午前10時54分

---

再開 午前11時03分

**○議長（堀江 隆臣君）** 休憩前に引き続き、再開いたします。

11番、田中万里君。

**○11番（田中 万里君）** 会派みらい、田中万里です。これより一般質問を行いたいと思います。

まず順序として、初めに次期市長選挙についてと観光について、議会事務局長の役職についてと申し出ておりましたが、次期市長選挙についてが一番時間をとると思しますので、この部分を最後に回して、3、2、1と行きたいと思しますのでよろしくをお願いします。

まず初めに、議会事務局長の役職について、以前より総務企画部長を初め市長をお願いしておりました。我々議会の縁の下の力持ちでいらっしゃる議会事務局長の職について、現在の課長職

より部長職にならないものかと。

その理由として、この熊本県内の市を見た中で、議会事務局長という立場の要職の方は、阿蘇市以外はほとんど部長でございます。それに準じて、上天草市においても行政、議会両輪というのであれば、議会事務局長は我々の代弁者として執行部の部長たちといろいろと打ち合わせ、あるいは我々の無理困難な執行部への一般質問等についても話し合い等をされるのではないかと思います。その場合、課長と部長では立場が違います。その辺も含めて、部長職に昇格させていただけないかというのを、去年よりずっと言っておりました。私は去年の12月にも申し上げました。それから約1年間ぐらい、それまでは多くの方が、この場で事務局長を部長にということをやられておりましたが、それ以来だれも言わなくなりました。というのは、おそらく局長が謙虚な人になったのではないかと私は思っております。それまでの議会事務局長は、その点については目がぎらぎらしてやる気がありましたので、各議員さんたちに、よそはこうなんです、議長について行って事務局長の会議に行ったらこんなにもじめな立場になりますと、我々に言われておりました。しかし、今の事務局長はそのようなことは一言も言わず、黙々と仕事に専念しておられます。

まず初めにお尋ねしたいのが、議会事務局長より4月から教育部長に昇進された村枝部長、今現在でもうちの議会事務局長は課長級であります。部長会議等で声を大にして、今の議会事務局長を部長の職にするべきであるというのは、多分言われておられると思いますが、どうでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 教育部長。

○教育部長（村枝 誠二君） 私は4月から松島の教育委員会に異動になりました。そうした中で、部長会議におきましても、そのようなお話を私からした記憶はございません。

以上でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 田中君。

○11番（田中 万里君） ございませんということで、残念でならないというか、市長を初め、総務企画部長に一言申し上げたいのが、我々は前村枝局長のころに、村枝という人間を部長にするために部長職にしろと言っていたのではございません。議会事務局長の局長の地位として、執行部といろいろとかけ合う立場として局長を部長にしてくれというのを、私は訴えていたつもりです。村枝現教育部長が部長になられたからといって、これが解決したわけでもございません。その点も含めてお尋ねいたします。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） おっしゃったように、人物で部長にする、しないの話ではございません。御存じのとおり集中改革プランという行政改革の基本となるものがございます。平成18年に策定をいたしまして、この中には52項目ございます。52項目の中で、組織の再編というのが、組織機構の改革という部分の2番目に上げられております。

現在の進捗状況ですけれども、A、B、Cの三段階で評価したときに、Aという部分でござい

ます。それはどういうことかといいますと、いつも市長が言うておりますけれども、合併は行政のリストラという部分に答えが帰着するのではないかと思います、平成16年度には7部に二つの支所、それと5局、それと24課ということで部長9人、課長27人でスタートしています。

それで現在ですけれども、6部23課5局、部長が6人、課長が25人と。しかも、今年度は地籍調査課を税務課に統合して、一通りのプランに基づく組織の再編が終わったという認識を持っております。そういうことをまず前提にして、今までお答えをしてきたわけですけれども、これまで議会事務局長の部長級ポストへの格上げについては、複数の議員から幾度となく提案が上がっていることは事実でございます。

昨年的一般質問において、組織改正の問題であり、十分検討しながら適切なあり方について再協議したいという旨の回答もしております。そういう中で、この集中改革プランの、過去の18年度から21年度までの検証、現在22年度をやりまして、23年度から25年度にかけてのまた新たなものを今つくるための作業をしております。そういう中で検討はしておりますが、現在のところ部長級への格上げは考えておりません。これが行政のリストラであり、市民が望む行政の姿だと私自身は確信しております。

○議長（堀江 隆臣君） 田中君。

○11番（田中 万里君） これが行政のリストラで市民が望むものということで、では逆に、もし局長を部長のポストに格上げした場合のデメリットの点については、給与面等が変わるのではないかと思います。どうでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） 給与面であり、管理職手当が変わってまいります。

○議長（堀江 隆臣君） 田中君。

○11番（田中 万里君） どのくらい変わりますでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） 一概には言えません。旧町時代の給料表という部分がのしかかってきておりますので、大まかに言いますと、二、三万円から三、四万円違ってくるのではないかと思います。

○議長（堀江 隆臣君） 田中君。

○11番（田中 万里君） それは年間ですか、月ですか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） 月額です。

○議長（堀江 隆臣君） 田中君。

○11番（田中 万里君） では年間にしたら、月3万円として、36万円ぐらい変わると思います。この36万円が、先ほど市民は望んでいないと言われました。確かに局長を部長にしたからといって、その効果というのが市民にわかるかといえ、私もはっきりとはわからないと思います。しかしながら、議会事務局、我々議員、先ほどから何度も申し上げているように、局長は我々



とかわって、時には執行部といろいろな議論をしたり、あるいは我々の一般質問、質疑、あるいは議会ですべてと取り上がったことを、かけ合いをしなければならなくなると思います。

確かに課長職においても、今現在においても一生懸命されていると思います。しかし、繰り返しになりますが、課長と部長の間の壁は非常に高いのではないかと思います。もし、今の局長が課長から部長になられたら、これまで以上に我々議会に対してもいろいろと苦言、あるいは政策立案についてのアドバイス等ももっともっとできるのではないかと、情報も部長職となるにつれていろいろな情報が入るのではないかと私は思います。

今、議会においても議会改革を行っております。うちの議長も議会改革をし、最初の市民に対しての議会報告会の中では、今世の中、各地では、議会は不必要というように言われていると。だから、今議会改革をして、我々の存在意義、あるいは議会の改革をして市民の負託にこたえるという熱い言葉で申し上げられておりました。その点も含めて、あとは総務企画部長、市長に対して、議会のことも考えた上で局長を部長にし、もっともっと議会が活性化して、そして市民の声をここで十分に伝え、そしてそれが予算化なり具体化するようによっていただきたいと思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） 先ほどの一般質問の中で財政改革の話が出ました。最低だという話、非常にそういう言葉が今でも頭の中に残っておりますけれども、これだけ努力をしてまいりました。市民にも相当の痛みを与えてまいりました。こういう中での行政改革、組織の見直しというのは当たり前の話であって、そういうことから私どもがやっていることと市民感覚のずれはないという意味の発言をしたわけです。着々と財政再建はやってきております。これは数字で、これまでの一般質問に対してもお答えしたとおりです。これは否定はできません。そういう中で、今5局ありますけれども、議会事務局長を部長職に上げるということは、やはり行財政改革の中で我々職員が目指すものに逆行するのではないかという思いがしております。

○議長（堀江 隆臣君） 田中君。

○11番（田中 万里君） 今の総務企画部長の答弁を聞きますと、何が何でも部長職にする必要はない、今の行財政改革をしている中で逆行するというような判断のもと、やらないと断言をされているととっていいですか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） 今の行財政改革の中では、非常に難しい問題ではございます。ただ、これもかねてから申し上げておりますように、5局ございますけれども、その5局の中で議会事務局長と水道局長については、田中議員がおっしゃるような大変な重責を担っておりますので、庁内の最高の意思決定機関でございます部長会議、あるいはきょうの議会もそうですけれども、これに当然のように出席をさせていただいております。そういうことで、私たちは私たちに重責という部分、当然我々執行部との意思の疎通という部分の観点から、そういう措置は講じております。

○議長（堀江 隆臣君） 田中君。

○11番（田中 万里君） 総務企画部長が以前、特別検討委員会等で総務企画部長としての立場でよく答弁をされます。その中で、私は総務企画部長としてというようなことを言われます。私が総務部長の答弁をずっと聞いておりますと、多分、部長という職だからそれだけ熱弁ができ、責任のある言葉として言えるのではないかと思います。それならばうちの局長職が部長職になったら、総務企画部長並みにそれだけの発言もできるのではないかと私は思います。

それならば、総務企画部長が課長のときに、そこまで強い意志のもとに発言ができていたでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） 学務課長を1年3カ月、財政課長を1年9カ月させていただきましたけれども、特に財政課長を拝命いたしました平成19年7月以降、1年9カ月の間には財政再建の指揮をとるという部分で、議会等でも総務部長を目の前にして、私なりの立場で発言もさせていただいておりましたし、また、それ以外の場でも財政課長としての発言をさせていただいております。個々の考え方やとらえ方の違いはあるかと思いますが、それぞれがその職責、あるいは職階に誇りと自信を持って職に臨むならば、私と同じような発言があつてしかるべきだと私自身は思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 田中君。

○11番（田中 万里君） このことを長々と議論しても時間がたつだけです。

以前、議会控室の中で、全議員さんたちの中でこの話題が出たときに、もし我々が言っていることが採用していただけないのであれば、みんなで抗議をし、とにかくその点について市長を初め総務企画部長にお願いをしようという話もしました。我々議会としても、改めてその点を話し合いたいと思っております。その当時は村枝局長でしたが、また改めてそういう話し合いを皆さんでやればと思っております。

それと、総務企画部長に勘違いがないように申し上げますが、今の局長が課長職だから仕事を一生懸命やらないといっているのではなくて、私は総務企画部長を課長職のころ、あるいは学務課におられた課長職ではないころから見ていて、私がこの課長を見ていた限りでは、年々発言力が変わってきたから先ほどの発言になったので、勘違いがないようにつけ加えて申しておきます。

では、次に移りたいと思います。観光面については、昨日よりいろいろとこの場で質問がっております。私もいろいろと通告書の中に記載しておりますが、ひとつパライズストローリーについて、きょうの新聞にも載っていたように、現状のことは十分わかりました。これは私の提案ですが、できる、できないかはわかりませんが聞いていただきたいと思っております。

まず初めに、市民の反応というのが、これは私に直接市民が言われたのが、このバスについて市民はむだ、無用、無関心と言われました。私は、そういうことを言わないで乗ってみれば楽しいですよということを言いました。というのが、この予算は我々議会も議決したので、執行部だけを責めるのではなくて、我々も議決した限りはその責任を負うべきだと私は考えております。

それならば、もっと告知等を行政と執行部と一緒にやって、利用者数を上げる方法を考えなければならぬと思いました。実は私もそういう市民の声、あるいは議会報告会で出る前から、このバスのことが非常に気になって2回ほど乗車しました。

1回目が日曜日でした。正直言って、だれも乗っておりませんでした。それで、スパ・タラソから一人の方が乗られて、これはどこに行くのかというような感じで乗られました。

1回目は私一人で乗ったのですが、2回目は子どもの反応を見たいと思ひまして、うちの4歳と3歳と数カ月の子どもと嫁さんと一緒に先月の23日祭日に乗りましたが、このときも乗っておられる人がゼロでした。それで、バスの運転手さんといろいろ話しながら行ったんですが、とにかく利用者が少ないということをバスの運転手さんも言われていました。

いろいろと話を聞いていたら、私が市議とは知らずにいろいろな話をされました。これまで乗った乗客の反応はどうかということを知ったら、まず宮津から発進します。それで、江樋戸や江後を通過していきますが、二号橋の公園や千巖山にとまります。バスというのは普通の乗用車より高さがあります。皆さんも御存じのように、橋の上を通過するときには景色がなかなか見にくいんです。というのが、橋の仕組みがちょうど目線の位置になって、なかなか海とかが見えません。ただ、バスなら上から見るのですごく景色がいいです。それで、うちの子どもがすごく喜んで、高いところから初めて見たと言いました。それで、バスの運転手さんも、乗られた方はみんないい景色だと言われるそうです。ただ、それがただ通り過ぎるだけなんです、ずっと。バス停にとまってお客さんを乗り入れするだけなんです。

言われた言葉で一番印象に残っているのが、三号橋、四号橋あたりを過ぎたところで一たん10分ぐらいとまって広場で写真撮影でもできれば、もっと観光バスとしての利用者がふえるのではないかと。千巖山においても、二号橋の公園に入って、森慈秀さんの銅像についても、この銅像は何ですかと聞かれるそうです。その点についても、おりて、この方が天草五橋の建設にこれだけ力を注いだ方で、今から通る橋がこの方が一生懸命力を注いでつくった橋なんですという説明なりをすれば、乗っている方たちも橋を渡るときに気持ちが変わるのではないかと思います。また、その先でおりて記念撮影等をされるときにも思い出として残るのではないかと思います。

それで、その後千巖山に行きます。今の時期はまだ桜やら咲いていないのですが、3月中ごろになれば桜が咲きます。あれをバスで行くことを想像したら、私はすごくいいのではないかと感じます。それと、あの上で見る景色もいいのではないかと思います。ただ、そこでもUターンするだけなんです。そこでおりて見るとします。見て、次のバスが来るまで1時間なんです。考えてください、知らない場所に行って1時間、どうやって過ごしていいかわからない状態で1時間待つことができますかと聞かれたときに、私もちょっと無理だと。特にお年寄りや女性だけのお客さんなら、山の上に1時間も置いていかれるのはちょっと不安が残るのではないかと。だから、私はあそこで登って、20分でもいいと思いますので、20分ぐらいとまって景色を見てもらって、いろいろそういう取り組みをしたらどうかと思いました。

そう思い、企画政策課に相談に行ったところ、いろいろと道路交通法等で何か縛りがあるそう

でした。今のあの場所は観光バスだけではなくて、民間も活用できるような路線にしてあるということで、なかなかその辺の絡みで、とまってそうすることができないというようなことでした。

私を感じるころは、2月までではございますが、今6便出ています。その6便のうちの3便ぐらいを、そういう活用法をしたらどうかと思うんです。それか、この間から出ているように龍ヶ岳まで行くようなルートをつくり、1日6便も要らないので4便ないし3便ぐらいで観光客を中心にしたそういうバス。鹿児島市内あるいは奈良のほうで私も視察に行った際にああいうバスに乗ったんですが、やはりとまってそこの景色を見れたりとかいうのもあります。

私は決して行政がサボっているとは感じておりません。この件について企画政策課に私が行った際に、担当課の方も現状を把握した上で、どうにかいい方向にならないかと一生懸命必死に調査、研究されておりました。それで、ただ一人の人間が考えるよりも多くの人間で考えて、そういう活用方法を出したほうがいいのではないかと思いますので、どうか今の案をちょっと研究してもらえないか。どうでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） 幾つか御提案をいただきましたので、今後検討材料にしていきたいと思います。

このパライズストローリーというのは造語でありまして、御存じのとおりパライズは樂園、ストロールというのはゆっくり散歩、トローリーはのんびり走るという造語でございますが、この名称からして、そういう部分を取り入れていかなければいけないだろうと思います。

現在考えておりますのが、国の過疎交付金967万円をいただいてやっているわけですが、来年度以降も当然継続してやることになるかと思えます。そうした中で今のような御指摘、あるいは観光の案内のためのガイドを乗車させるとか、そういうことによって上天草市を市外の方に大いにアピールするというのも当然視野に入れながら、今後の運行について前向きに検討していきたいと思えます。

○議長（堀江 隆臣君） 田中君。

○11番（田中 万里君） 時間もあと30分を切りましたので、余ったら観光についてまた質問したいと思います。

次期市長選挙について、前議会のときより私は市長にこの点についてお尋ねしておりました。私以外の方もこの点についてお尋ねしましたが、私は違う観点でちょっとお尋ねしたいんですけども、この4年間で振り返って、100点満点で採点すると市長みずからの評価は何点ぐらいか。それから、この4年間で一番力を入れて取り組んだことというのは、これまでの答弁を聞いておきますと、財政改革だと私は答弁の中で感じております。この点と、この4年間でやり残したこと、これもさきの議会の答弁等でいろいろと申し上げておられますので簡単でよろしいです。この点についてまずお尋ね申し上げます。

○議長（堀江 隆臣君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） 私の政治家としての評価を述べよということでございますが、最終的

には来年4月の市長選挙によって有権者の審判が下りますので、そのときに評価がされるわけでありませけれども、私自身、一政治家としてどのように自分で自分を評価しているかという観点から申し上げますと、点数としてはざっとしたものでありますが70点ぐらいだろうと思っております。というのは、これまで使命感を持って上天草市の運営に当たってまいりましたが、やはり日々反省の連続でございます。日々の言動に対しまして自制しながら、もう少し人間関係を円滑にする、あるいは皆様とも諸問題の解決に当たる、そういった力があればと思う毎日でございます。そういった観点からいいますと、やはり高い得点には結びつかず、何とかかんとか自分なりにやらせていただいたかという考えで、また思いでございます。

そして次の質問でありますけれども、4年間で取り組んだことということでありますけれども、これはマニフェストに書いてある再生と自立という言葉に尽きるかと思えます。再生というのは上天草市を財政的に立て直すというのが第一の観点であります、もっと大きな視点から申し上げますと、上天草市は合併いたしまして、まだ自治体としての基礎ができていませんでした。そのため、自治体としての基礎づくり、そして再建という行動をとらせていただいたところがございます。その基礎づくりというのが財政的なことであったり、あるいは行政組織であったり、またあるいは市民と行政との融和であったり、行政の距離を縮めるという作業であったり、そういったことをもろもろやってきたところでもあります。そして、目に見えない問題といたしまして、合併後、旧4町間の垣根というのがございまして、やはりこれをどうにか取り払わなければいけない、市民として一体感を持たなければいけないというところにも腐心してきたところがございます。

そして自立という部分については、これは自治体として自分たちでいろいろやりくりできるような、そういう理想を持って取り組もうということでございますが、端的に言いますと経済の立て直しを中心とした生活基盤の強化、そして市の活力の引き出し方でございます。これについてはまだまだ道半端であり非常に困難な作業でありますけれども、上天草市が中長期的に存続するためには、やはりどうしてもこういう作業に手をつけざるを得ないと思っております。

そして、市を取り巻く環境といたしまして、地方分権というのが大分進み始めております。これまでは国縣市町村といういわゆるピラミッド型の統治構造でありましたけれども、こういう垣根が取り払われまして、自治体は自治体なりに自分たちの問題は解決しなさいという時代になり、それに応じたことをやらなければいけないということになっております。つまり、これをするには高度な行政運営が必要でありまして、そのためには人、金、意識、組織、これらを一体的に高度化しなければいけないということで、いろいろな取り組みをしてきたところがございます。

そして、4年間でやり残したことということでありますけれども、これは多々ありますが、やはり一番には豊かさづくり。市民の皆様の生活の、あるいは経済の立て直しでありますけれども、これはやはり道半端、十分な達成はし得なかったと思っております。

そして、合併から引き継いでおりますさまざまな問題、昨日も議会で取り上げられました損失補償であったり、あるいは庁舎問題であったり、水道料金等であったり、そういった諸問題もま

だ残っているかと思えます。これら一連のことを、また次の解決に向けてマニフェストづくり、公約等で示していきたいと思えますし、これからの上天草市づくりというのは基礎づくりの上の次の段階に市として飛躍できるような、そういう取り組みを目指すべきではないかと思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 田中君。

○11番（田中 万里君） 自己評価は70点ということでございましたが、その中で人間関係というようなことを言われました。市長がどのように人間関係というのを感じておられるか私もわかりませんが、市長の立場としていろいろ難しい判断もされることもあるかと思えますが、私もこの辺は一番大事なことではないかと思えます。

私は4年前のマニフェストの検証はされたかという点についてお尋ねしておりますが、この辺はこれまでの答弁の中でいろいろと検証をしたとの答弁をされております。まず初めに、先ほど北垣議員よりの一般質問の中でありましたが、財政が好転したというような発言をずっとされております。これについてお尋ねしたいんですが、この4年間の中で人口が、この間の熊日新聞の調べにおいては2万9,000人でした。スタートしたときは3万5,000人だったと思うんですが、約6,000人減少した。これは市長だけの責任ではないと思えますが、私は、先ほど市長もみずから言われました豊かさづくり、この点について道半端であると。豊かであれば人口も減ることはないと思えます。この人口が減った要因等は何だと思えますか。

○議長（堀江 隆臣君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） やはり所得の問題、そして雇用の問題が第一だと思います。

○議長（堀江 隆臣君） 田中君。

○11番（田中 万里君） その辺を踏まえますと、確かに先ほど総務企画部長も数字が結果であるというような答弁を言われました。確かに数字的に上がっている点は私も認めます。執行部が努力されたのもわかっております。しかしながら、違う観点から見ますと、この二、三年間において国からの交付金が約14億円来ております。もし、この14億円もの地域活性化交付金が交付されなかったときを考えると、この基金の積み上げ、あるいはいろいろな面において、この数字というのは出なかったのではないかと思うのですが、その辺どうでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） この交付金というのはいろんな交付金、景気対策のための交付金等が交付されておりますが、これはうちだけではなくて、日本全国に1,800ばかり自治体がございますけれども、すべて交付されているかと思えます。そういう中で、確かに自治体にとっては三位一体の改革以来、地方交付税が落ちる中で、財政運営の追い風になったとは思いますが、それがどの程度かと言われますと、なかなか明確には答えられない部分がございます。

ただ要は、確かに追い風にはなったものの、現市長が就任早々からこの財政改革を最優先に取り組んで、そしてこの3年有余の間に結果を出したということは特筆すべきことだと思っております。

ますし、何も交付金があったからすべてパーセンテージがよくなり、あるいは基金の積み立てがここまで来たということではないと思います。これはあくまでも再生と自立という御旗のもとでやってきておりますので、自助努力なくしてはこの結果は得られなかつたらうし、得られるはずもなかつたと思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 田中君。

○11番（田中 万里君） では逆に言いますと、交付金がなくてもここまでやれたという自信があるんですか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） 私が申し上げたのは、その追い風になったということは確かにございます。基本的なことを申し上げておまして、例えば財政調整基金が約15億円まで近づいているわけですが、これが果たして可能だったかと言われると、私も自信はありませんが、ただ、それに向けて最善の努力を重ねてきた結果が、現在のこの数字となっているということだけは言えると思います。

○議長（堀江 隆臣君） 田中君。

○11番（田中 万里君） 私も冒頭で申し上げたように努力は認めているんです。

では、次にお尋ねしたいんですが、将来的に財政調整基金は17億円、減債基金を8億円、計25億円積み上げる目標数値というのが示してありますが、逆に25億円積み上げたとします。ただ、私が心配しているのが、今回はこういう数字になっておりますが、これから交付金、あるいは人口が減少したことによって、その辺にもすごく影響してくると思います。その中でこれからもっともっと努力をして、こういう数値に近づかなければならないと思います。

一般質問でさんざん出ておりますが、これから先、松島庁舎建設、あるいは倉江の水道事業の建設、あるいは学校関係の耐震等の事業、大型工事というのが、この5年間ぐらいで立て続けに続くのではないかと思います。その中で、果たして25億円基金を積み上げて、今好転したと言われておりますが、また先々では逆にもとに戻るといふようなことにもなりかねないのではないのでしょうか。その点について、今後の大型工事等も含めての見通しはどうなっておりますか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） 現在の基本方針としては、いつも申し上げておりますけれども、普通建設事業費が12億円、このうち中身は起債で5億円ということをプランで打ち出して、それにごく近い形で現在までやっております。

御指摘のように、水道の倉江の整備については企業会計ですので、全く一般会計に関係ないとは言えませんが、これは企業会計のほうで運営していくことですので、私は全く心配していません。ただ、御指摘のような松島庁舎の問題であり、あるいは学校の増改築、耐震化を含めますと、さてこれからどうなるかということですが、現在のところ平成25年度までの事業計画書が上がってきております。まだ調整が済んでおりませんが、いずれにしてもこの12億円、そしてプラスアルファという部分で、例えば学校の耐震化改築であったりと、こう

いう政策的な部分についてはやっていかざるを得ないだろうと思います。

しかし、そういうことをやった上でも、現在の試算では平成27年度に、例えば実質公債費比率がピークを迎えて、28年度以降は減少傾向に転じるという予測も立てております。そういうことで、いつも申し上げておりますけれども、選択と集中という部分。あれもこれもではなくて、あれかこれかというリバイバルプランの基本的な精神のもとでやっていくなれば、危機的な財政状況にはならなかっただろうと思います。

ちなみに申し上げておきますけれども、平成10年度に4町の財政調整基金は17億円ありました。ところが駆け込み需要と言いますか、合併前後の普通建設事業を計算したことがございますけれども、約50億円使っております。そういうことをすれば、結果として財調も最悪時の4億5,000万円まで減るといふ警鐘にもつながるかと思っておりますので、大型事業があってもきちんとした規律を保っていくなれば、身の丈にあった財政運営は可能だと思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 田中君。

○11番（田中 万里君） 今の総務企画部長の答弁は、以前の執行部のそういう予算の使い方について、それを反面教師として今やっているというように私は聞こえました。数字的に見たら、数字がすべてを物語るというような認識のもとでおられるのではないかと思います。

では、逆に市民の暮らしというのに目を向けてみますと、一番市民の暮らしを、市長を初め総務企画部長が数字面で言われるのであれば、市税というのはこの3年間どういう動向になっているでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） リバイバルプランで三本柱を立てまして、その最初に上げたのが自主財源の確保という部分でございます。そういう中で、市税、特に市民税と法人市民税が億単位で減っているという現象は当然認識しておりますし、ではこれが何を物語るのかと申しますと、やはり人口の高齢化であったり人口減少であったり、経済振興の衰退であったりという部分での現在の動きだと認識しております。

○議長（堀江 隆臣君） 田中君。

○11番（田中 万里君） 私は、執行部が努力をした結果、こういう財政力指数を初め、公債費比率等が数字的にはよくなったという点は評価をします。しかし、好転した好転したという言葉が、市民に対して何が好転したのだろうかというようにとらえられます。

私が申し上げたいのは、決算委員会の中で、監査委員からもこの好転したという言葉について、悪い中から非常に悪かった、それで、今非常に悪かったのが悪くなった。要するにここがゴールラインとすればここに近づいたと。私は好転したというのは、このゴールに近づいたときに好転したという言葉を使うべきではないかと思います。批判をしているのではございません。数字が以前よりもよくなったが、まだまだ努力しなくてはならない等の言葉で言うべきではないかと思っております。本当の意味で好転したという言葉を使うのであれば、私は西本議員より今の状況はこんな状況だということでこれをいただきましたが、市税が20年度から21年度で1億2,469



万円減っております。これは全国的に見てもそうかもしれませんが、逆に上がっているところもあるのではないかと思います。

以前、研修で講演を聞きに行った方が福井県の方だったんですが、福井県は人口が減っていないそうです。そういうところもあります。市長も認めておられることだと思いますが、自主財源をふやすように努力をするという点、この部分で、市税が上がったことに対して市民の暮らしもよくなったという判断ができるのではないかと思います。ですので、私は市税が上がる施策をこれからどんどん推し進めていかなければならないと思います。どうでしょうか。時間がないのでよければ市長に答弁をお願いします。

○議長（堀江 隆臣君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） 私もおっしゃられる意味はよくわかりますし、そういった財政運営が理想であります。現在デフレスパイラルではないですけども、人口減少とともに税収も落ち、それによって軟弱な財政基盤というのは現在もあるということは私も認識しております。

○議長（堀江 隆臣君） 田中君。

○11番（田中 万里君） 今後、市長も3月までで一期目が終わりますが、執行部の方では残られる方がまだたくさんおられます。私は言葉のまやかしとまでは言いません。しかし、本当の意味で市民のこういう所得や雇用の場の確保がしっかりできた暁に、もっと安心する言葉を使うべきではないかと思います。執行部が努力をされているのも十分に認めた上で、その辺をお願いしたいと思います。

続いて、指名入札についてお尋ねをしております。残り8分です。私、この点についてきょうこの場で本当なら強く言いたかった点がたくさんございましたが、きのうより傍聴された方、あるいは私のほうに電話があつて、上天草市の議会は国会みたいですねと言われました。今の市民の暮らしをもっと議論してほしいと言われました。

この辺は指名入札についてちょっと軽く触れたいと思うんですが、この4年間で指名回数が多い順と、落札金額が、仕事を多く市からもらった会社の一覧表をもらいました。簡単に申し上げますと、業者の名前は言っていないんですか。

○議長（堀江 隆臣君） 控えたほうがよくないですか。

○11番（田中 万里君） そうですか。逆に言うと、私の見た感じでは、上位ほとんどが前回の選挙のときに市長を応援した会社が占めているのではないかと思いますし、これは市民からの声でございました。もう今さら、それをとやかく言うつもりはございませんが、今後はそういう声が上がらないような指名入札をやっていただきたいと、ここで何度も言っておりますので、ぜひとも今後こういう声が上がらないためにも、条件付一般競争入札の導入を前向きに取り組んでいただけないかと思います。

それと以前、まだ前部長のときにお尋ねしたんですが、入札監視委員会なるものを設置してはどうかということを提案したところ、前向きに検討しますというような答弁があつておりましたが、その点について簡単にいいので答弁願います。

○議長（堀江 隆臣君） お諮りします。間もなく12時を過ぎますが、審議が終了するまで会議を続けたいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（堀江 隆臣君） 異議なしと認めます。よって、時間を延長して続けます。  
総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） 監視委員会の設置について、その設置の目的、必要性、義務という部分で私も勉強不足でございます。必要であれば、あるいは義務化されていれば当然責めを負わなければいけないはずですので、そこら辺ちょっと勉強させていただければと思います。

○議長（堀江 隆臣君） 田中君。

○11番（田中 万里君） 時間も残り5分でございます。この指名入札については、これまで何度となくこの場でも議論されたことございますので、そういう議論の対象にならないように、やはり公正、公平に指名が行われることを望んでおります。

残り4分で、ちょっと私から執行部にお願いというのがございます。というのが、これまで一般質問等でいろいろと要望が上がっているかと思えます。新幹線のことについてとかいろいろです。私はちょっと考え方がひねくれているのかどうかわかりませんが、実は私も三、四年前までこの一般質問であれをしてくれ、これをしてくれというようなお願い、こういうのをつくってくれ、こういう観光開発をしてくれというようなことを言っておりました。

ただ、いろいろと私なりに勉強したら、総務部長も言われているように、上天草市にはそういうことをする余力が余りありません。それならば、私が最近思ったのが、今の企画政策課長と話したときに私に、田中議員、金がないないと言いますけれども金はあるんです、うちにはないですが国とか県とかいろいろな財団にありますと。そういうのを持ってきて、そのお金でこの上天草市でいろいろやったら効果があらわれるというようなことを言われて、私も3年前からそういう取り組みをして、いろいろと今インターネット等で情報が入ります。

そういう中でちょっと紹介したいんですが、この間青森県に視察に行った際に、青森県というのがまちづくりの団体がすごく活発に活動しております。新幹線が同じように青森県も通ったときに、新幹線に絡む事業というのを多くしておりました。その予算の確保というのが、市民の団体が予算の確保をしているんです。行政に頼るのではなく、そういう市民の団体が企画、立案をし、それをいろいろなところに申し出てお金を持ってきて、それで事業をする。その取り組みについて聞いたところ、その青森市長は元まちづくりの団体のトップだったそうで、そういうのを促進してしたそうです。

我が市においても、今後はそういう人材の育成、助成金等を市に頼らなくてもよそのどこから取ってくるような人材育成をして、観光の活性化や経済の活性化に努めるべきだと思います。

もう時間がないので紹介できないんですが、毎年いろいろな助成金が出ます。もう10から20、30ぐらいあります。多いところは2,000万円、3,000万円出します。そういうのをもっと

行政のほうで調査研究をして、そして地元にあるまちづくり団体やNPOの団体に、こういうのを出したらどうかと。それで、そういうのを働きかけるような仕組みをつくっていただきたいと思います。それと同時に、人材育成です。今この上天草市において一番そういうのに出さない理由というのが、企画書をつくれな、ノウハウがない、この2点でございます。これがあればできるので、人材育成をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長、残り1分ですので簡潔にお願いします。

○総務企画部長（永森 良一君） 今の御指摘は大変ありがたい内容です。それで、一言で申しますと、まず二つございます。熊本県の火の国未来づくりネットワークというのがございます。ここに登録をしていただきますと、そういう情報が登録団体に伝わります。それともう一つは、NPOのボランティアという部分で、ここも情報提供をいたしておりますので、登録をしていただくなり、また私のほうからも随時情報を流したいと思います。

○議長（堀江 隆臣君） 田中君。

○11番（田中 万里君） これで終わりますが、ちなみに今言われたところには登録しております。

最後に、きょうの新聞に県議会の件が載っていて、ある県議がやめるということで最後にある政治家の言葉を引用し、政治屋は次の選挙を考え、政治家は次の時代を考えるということが載っておりました。川端市長におかれましては、ぜひとも政治家であっていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（堀江 隆臣君） 以上で、11番、田中万里君の一般質問が終わりました。

ここで昼食のため休憩し、午後1時から再開いたします。

休憩 午後 0時05分

---

再開 午後 1時00分

○議長（堀江 隆臣君） 午前中に引き続き、一般質問を再開します。

5番、宮下昌子君。

○5番（宮下 昌子君） 5番、日本共産党の宮下昌子です。

それでは、通告に従い質問いたします。

まず、地域振興策についてです。既に御存じのことだと思っておりますが、私たちは先月10日から議会報告会を市内8カ所で開催し、市民の皆さんと意見交換をいたしました。

私の班の担当だった龍ヶ岳町樋島では、この樋島の活性化をどう考えているのかという質問も出ました。人口減少と地域の衰退に危機感を持っておられる方がたくさんおられました。この人口減少については一般質問の初日にも出ておりました。また、きょうの午前中にも出ておりました。合併時に3万5,000人だった人口も、現在は3万2,000人です。急激な人口減少と言えるのではないのでしょうか。県の統計調査課は10月1日現在の推計人口を発表しましたが、上天草市は2万9,309人となっていました。上天草市に籍があっても市外に出ている人たちが

多いということです。減少の主な原因は、総務企画部長が雇用の場がつかれないと初日に答弁されております。この人口減少ですが、合併時と比べて旧町単位でわかれば減少率とともに教えてください。

○議長（堀江 隆臣君） 市民生活部長。

○市民生活部長（佐伯 秀昭君） ただいまの御質問についてでございますけれども、旧町ごとに報告させていただきます。合併当時、大矢野町が1万7,653名で、平成22年度で1万6,213名、1,440名、8.16%の減少でございます。松島町におきましては9,214名から8,252名、962名の減少、10.44%でございます。姫戸町におきましては3,525人から3,076人で449名の減少、率にしますと12.74%の減少率でございます。龍ヶ岳町では5,269名から4,576名、693名の減少で、率で13.15%。トータルで3万5,661名から3万2,117名、3,544名、9.94%の減少率でございます。これは総務省の人口推移のほうで統計上出しております。いわゆる住民票がある方を対象にしておるといふことで御理解いただきたいと思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 宮下君。

○5番（宮下 昌子君） 籍がある人ですね。先日の新聞紙上の発表は推計人口ということで、上天草市に実際住んでいる方ということになっておりますので、その数字の差額が市外に出て働いている方、もしくは学生さんということになるのではないかと思います。

今の部長の答弁にもありましたが、本当にやはり姫戸町と龍ヶ岳町の減少率が高くなっております。農業でも食っていけない、漁業でも食っていけない、唯一の働き場所だった誘致企業では縮小によるリストラ、そして下請業者への影響、相次ぐ建設業者の廃業で、働く場所がなくて市外へ出ていかざるを得ないのが現状です。私は、これは非常事態ではないかと考えます。

まずは、人口流出をとめるには仕事場づくりだということは、だれもがわかっていることです。そのために企業誘致も進めておられると思います。今回、樋合小学校跡地に最初の誘致企業としてキノコの栽培が行われるようです。30名の雇用も生まれるというお話でございましたが、地元はこの雇用に大変期待が高まっております。この30名の雇用というのは正規雇用なのでしょうか、お尋ねをいたします。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○経済振興部長（坂中 孝臣君） 今の状況からしてみますと、建物をつくりまして菌床をそこに入れます。大体4月に入れますので、上天草市の気候からしますと、4月から菌床を入れて収穫をし始めまして、11月いっぱいぐらいまで収穫ができるのではないかとということです。初年度といたしましては、本採用の方を含めまして現在3名の方がいらっしゃいます。その方たちの指導のもとで地域の皆さん方を30名雇用されるということでございますので、そこにあと12月、1月、2月、3月の三、四カ月は雇用が切れる期間があります。しかし、それも今、社長が違うキノコを入れて、1年間を通して雇用しようではないかというような計画を持たれて、今協議をされている状況でございます。そこについては繁忙期のときには、全面的な

本採用であるのかパートであるのかは、今後協議をしていかれると思います。

以上でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 宮下君。

○5番（宮下 昌子君） 正規か非正規か今の段階ではわからないということですね。今の現状ですので、ぜひここは企業の方たちも頑張っていていただいて正規雇用をしていただきたいと私も願っております。

これまでの日本の地域開発政策は、大型公共事業によって道路や港湾、空港などの産業基盤を整備し、そこに企業を誘致すれば地域経済は活性化するという考えのもとに行われてきました。公共事業のような一回きりの投資、また、地域で生み出された所得を本社のある都市へ移転してしまう誘致企業や大型店舗では資金が地域内で循環しないということになります。雇用が生まれるという点においては、企業誘致を完全に否定するものではありませんが、進まない企業誘致よりも地元企業への支えが大事ではないかと思います。

上天草市の基幹産業である第一次産業と地域経済を支える中小企業の振興策についてお聞きします。現在もさまざまな支援が行われていると思いますが、主な施策と成果をお聞きいたします。主なもので結構です。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○経済振興部長（坂中 孝臣君） 議員が申されましたことについては、農林水産課関係、商工観光課関係、企業誘致課関係がございますので、とにかく短く申し上げます。

地域振興策の現状と成果でございますけれども、農業につきましては、ただいま農営促進対策事業の中に、小規模土地改良事業、二つ目に近代化総合対策事業の二つがございます。その小規模土地改良事業におきましては、本年度の要望が4件ございまして、補助金が184万5,000円でございます。それと、近代化総合対策事業につきましては、本年度要望が2件で、補助金が12万2,000円でございます。成果といたしましては、労働力の軽減による生産性の向上が図られて、経営の安定に寄与するというところでございます。

それと、上天草市の農林水産業の振興でございますけれども、これには米づくりの推進とか、経営安定事業とかがございます。それにつきましてはの本年度事業の補助金は1,446万8,000円でございます。その内訳といたしましては、経営安定事業が193万8,000円、畜産振興対策事業が143万円、それと地域活性化事業が140万8,000円、水産資源確保事業が969万2,000円でございます。これにつきましては、水産でも稚魚等の放流によりまして資源の確保がされて、経営の安定が図られるという状況でございます。

今度は商工観光課でございますけれども、商工観光の振興につきましては、22年度ベースで申し上げますと、商工業の振興対策補助金、商工会の補助金でございますけれども、1,741万5,000円、中小企業の短期融資貸付金2,000万円、中小企業の利子補給補助金が60万円、大矢野スタンプ組合、つばきスタンプ組合事業として63万円、海運業の振興費補助金として54万3,000円となっております。成果といたしましては、このような事業をすることによりまして商業振興及

び継続的に推進することによりまして地域内の消費が増加して、地域経済も活性化するものと考えております。

それと企業誘致課でございます。企業誘致課の中には、優遇措置及び助成金の適用に係る申請の案件について、企業の方にサポートしております。企業から上天草市へという申請等もございまして、案件として10件の加工の製造業者がおられます。それにつきましては、上天草市の工場等設置奨励条例に伴う申請、固定資産税の3年間の免除、それから上天草市の立地及び雇用促進条例に伴った補助金の申請、企業から熊本県、財団法人に申請をされるサポートということで12件ございます。これは地域総合整備財団、それとくまもとテクノ財団等に新しい分野で進出する企業補助事業に伴う新分野進出助成金の申請等がございます。熊本県に対しても、熊本県の工場等の設置奨励条例に伴いまして県税の免除、不動産取得税や事業税の3年間の免除等についてサポートをしております。

以上でございます。

**○議長（堀江 隆臣君）** 宮下君。

**○5番（宮下 昌子君）** 今、部長から答弁いただきましたが、さまざまな支援は行われているようでございます。今の不況ですから、なかなか成果が見えてこない部分もあるかと思いますが、今の不況が長引くということもあって、この間、国からの緊急支援の交付金も来ておりますけれども、今の状態で言いますと焼け石に水という感じがします。

今、どこを回っても仕事を何とかしてほしいという声が聞かれます。地域経済の活性化は、今回の議会の一般質問のこれまでの答弁でも、市長は次年度に向けて地域経済の活性化ということも言われておりますが、地域経済の活性化というのは、住民がそこで住み続けられるかどうか、一人一人の住民が元気に暮らせるかどうかではないかと私は思います。地域経済の活性化については、私はこれまでも建設業者の仕事興しにつながる住宅リフォーム助成制度、これは先日少し建設部長にお聞きしましたら検討中ということでございましたが、その辺のことを少し建設部長にお聞きしたいのですが、いいですか。

**○議長（堀江 隆臣君）** 建設部長。

**○建設部長（尾上 徳廣君）** 先般、宮下議員から、一般質問ではないのですが住宅リフォームの補助制度ということでお聞きになられましたけれども、私も共産党新聞の赤旗新聞を読んでいます。その中に、住宅リフォーム改修補助金という欄が1面と6面に載っておりました。それを見ますと、全国の自治体で約1,600余りの市町村が実施しております。県単位では秋田県1県だったと思います。その中で市長ともいろいろ協議をして考えましたが、上天草市もよその自治体のまねをせずに熊本県でも上位に入るぐらい先駆けて、そういう制度、要綱をつくっていきたいと考えております。

以上です。

**○議長（堀江 隆臣君）** 宮下君。

**○5番（宮下 昌子君）** ありがとうございます。私も昨年議員になりましてから、すぐの議会

でこの助成制度についてはお願いしておきましたが、本当にこれは建設業者の方の仕事興しとともに、市民の皆さんが住宅を改修したいと思ってもなかなかできないという方たちにもいい制度でございます。そして、その材料を市内の業者から買うということで、お店にとってもいい制度でございますので、ぜひこれは早くしていただきたいと思います。

それとあとは、農家支援の耕作放棄地解消と地産地消ということでも提案をしております。今回は人口減少で地域が衰退していく現状を何とかしたいという思いで質問と提案をいたします。

先日、総務常任委員会で、ごみ問題で福岡県筑後市へ、それとグリーン・ツーリズムと定住促進事業問題で長崎県松浦市へ視察研修に行つてまいりました。松浦市でのグリーン・ツーリズムの取り組みは、平成15年から3団体で活動していたのを昨年一本化し、協議会を設置されています。お隣の平戸市も含めて、現在500件の民泊受け入れの登録があり、1日2,000人の受け入れができるそうです。ことしは2万1,000人の修学旅行生が来ているようで、来年はさらにふえ2万4,000人の予定となっているということでした。経済効果は2億5,000万円。何よりも民泊を受け入れた地元の農業、漁業の皆さんが元気になるということが一番のようです。また、それぞれの団体が地域を生かした独自の取り組みもされております。上天草市では11月29日から田舎暮らしモニターツアーも開催されているようですけれども、グリーン・ツーリズムの取り組みを教えてください。

**○議長（堀江 隆臣君）** 経済振興部長。

**○経済振興部長（坂中 孝臣君）** グリーン・ツーリズム等の具体的な取り組みが上天草市ではおこなわれていると感じております。収穫型、観光型農業、漁業体験ツアーの受け入れ体制の整備につきましては、今回設立されるブランド推進協議会において農商工連携や6次産業化を推進していくこととしておりますので、市内の生産者だけでは既に実施されているところもございますけれども、このようなソフト関係を絡めた取り組みについても協議会内で検討してまいりたいと考えております。

農家、漁業、民泊の掘り起こしにつきましては、本市の場合、既存の旅館、宿泊施設等がございますので、そうした施設と競合する部分もございます。慎重に検討をしていく必要があると考えております。

先ほど言われました松浦市につきましては、人口も私たちのところと変わりませんので、ここにつきましては非常に私たちも関心がございます。先ほど言われましたとおり、ここを参考にし、上天草市に子どもたちやいろんな皆さん方が来ていただけるような策を練らなければならないと感じております。

以上でございます。

**○議長（堀江 隆臣君）** 宮下君。

**○5番（宮下 昌子君）** まだグリーン・ツーリズムはおこなわれているということのようですけれども、これは農業とか漁業をしている方たちにとっても、とてもいい、元気になると松浦市の方は言うておられましたので、これは単独ではなかなか難しいと思いますので、いろんな団体

と一緒にしなければいけないと思いますが、ぜひ考えていただきたいと思います。

また、旅館業の方たちとの兼ね合いですが、これは松浦市の方のお話では、例えば修学旅行について来た先生方がホテルとか旅館に泊まれるそうです。そういうのもあって、そこまではないというお話でございました。ぜひ取り組みを進めていただきたいと思います。

次に、同じ松浦市ですが、移住・定住促進についてですけれども、議員の皆さんのところにも向こうでもらってきた資料をお配りしておりますので見ていただければと思いますが、定住支援制度ということで、いろいろつくっておられます。上天草市の場合はどうなっているのかと思って、私もホームページを見させていただきましたが、セカンドライフ支援ネットワーク外の風の発足や、移住・定住支援コーナーというのもありました。ただ、初日に建設部長が質問の答弁で答えておられましたけれども、まだ上天草市ではなかなか住宅補助の制度とかができていないという答弁だったように思いますが、私もこのホームページから見ましても、まだ少し取り組みがおくれていると感じました。

松浦市の場合ですが、これを見ていただくといいと思いますが、ふるさと就職奨励金、賃貸住宅入居費補助金、定住奨励金というのがあるそうでございますが、成果も上がっているということでした。まず何よりも、これ以上の人口減少に歯止めをかけたいという松浦市の意気込みをとっても感じました。ちなみに、ことし10月からは子ども医療費を中学校3年生まで拡充し、子育てしやすい環境づくりも目指しておられます。この支援制度ですが、この中で例えば、ふるさと就職奨励金制度というのがあるって、私はこれはなかなかいい制度だと思ったんですけれども、総額が30万円の就職奨励金ということで、5年間毎年5万円、地元で就職した人に来るわけです。詳しいことは見ていただければいいと思いますが、今の現状では学校を卒業して外に出て行ってしまう子どもたちに、地元で就職していただくということで、人口流出の一つの制度としてはいいのではないかと思います。

それで、この定住支援の制度について、確認のためにもう一度お聞きしますが、上天草市の現状はどうなっておりますか。

**○議長（堀江 隆臣君）** 総務企画部長。

**○総務企画部長（永森 良一君）** 定住支援ということで御提案いただいております。確かにしております。市長からは早い段階で、これに早急に真剣に取り組むようにと指示を受けているんですが、思うように進んでいない現状であります。

今現在、うちでやっておりますのが、民宿の協力によるショートステイの受け入れとか、あるいは移住相談者に対する不動産物件の情報提供ということで、これらを通じて本市への移住を促すためのきっかけづくりを行っているところであります。

昨年度になります、区長さん方の御協力を得て、177の行政区の空き家調査も既に実施しているわけですが、まだこれが生かし切れておりません。そういうところでは、いろいろ課題や問題も抱えながら先に進めないという状況でございます。先ほどおっしゃった田舎暮らし体験モニターツアーも当初は11月ということで予定していたんですが、ちょっと諸事情が生じまして、



これも2月に二泊三日で予定をしております。

そのほかのことなのですが、東京とか大阪で開催されております移住フェア等において、本市の移住相談窓口を設け、市のPRと移住希望者の相談を行っているところであります。今年度は本市への移住者の会に対して、同会への新規加入者の促進を図り、移住後の不安を解消するための交流会の実施や、都市部への情報を発信するためのパンフレット作成に要する支援を行っているところでございます。

そういう状況で、非常にもやもやした部分がございますが、先ほどおっしゃったふるさと就職奨励金にいたしましても、まず雇用の場がないことには、これにはなかなか結びつきにくい点もあるかと思えます。市長がいつも申し上げておりますように、経済振興を図って雇用の場をつくり市民の懐を豊かにするということが、結果的にはこういう部分にもつながっていくだろうと思っておりますので、貴重な提言、御提案として受けとめたいと思えます。

**○議長（堀江 隆臣君）** 宮下君。

**○5番（宮下 昌子君）** 今回の答弁では、なかなかおこなっているということではございます。このグリーン・ツーリズムと移住・定住促進についてですけれども、今いろいろ松浦市のことを参考にお話ししましたけれども、やはり財政的な支援が大きくなるのではないかと思います。

今、部長が答弁されましたけれども、就職のことについても雇用する企業がなければと言われましたが、現在、上天草市内にある企業に、地元の学校を卒業した子どもたちを雇用してもらうという方向でいろいろな手当をするなり、そういうことも考えていけば地元の企業も子どもたちを雇用しやすいようになると思えますので、そういう制度もあわせて考えていただければと思います。

市長にお尋ねしますが、このグリーン・ツーリズムと移住・定住促進については、市長はどんなお考えを持っておられるのかをお聞かせください。

**○議長（堀江 隆臣君）** 市長。

**○市長（川端 祐樹君）** ともに経済を立て直す上で、一つの政策であると認識しております。

**○議長（堀江 隆臣君）** 宮下君。

**○5番（宮下 昌子君）** 現状ではなかなかおこなっているということのようですので、ぜひこれは行政も率先して地域の皆さんとともにやっていただきたいと思えます。このグリーン・ツーリズムというのを見てきまして、やはり地域おこしに大変有効であると感じました。

今回の議会にキャンプ場など新たな指定管理者を決定する議案も出ておりますが、例えば白嶽森林公園や龍ヶ岳山頂自然公園などは地元の方のようです。それで、行政と民間と一緒にやってこのことについては取り組むことができるのではないのでしょうか。松浦市もまたお隣の市とも提携してやっておられるようですので、例えば、御所浦は早く始めておられますので、そちらのほうとも協働してできることではないかと思います。

先ほども申しましたが、松浦市は2億円以上の経済効果を生み出しているということですので、ぜひ一歩足を踏み出して取り組んでいただければと思います。次の質問に移りたいと思

ます。

次は国民健康保険についてですが、このことについては前回の議会で通告しておりましたが、時間の関係上、質問することができませんでしたので、今回再度取り上げることにしました。国民健康保険はどこの自治体でも慢性的な赤字となっています。高過ぎる国保税や、非情な滞納制裁、そしてふえ続ける無保険者など貧困と格差が広がる中で、市町村の国保は危機的な状況となっています。

原因の大もとは国の予算削減です。国庫支出金を医療ベースで45%から38.5%に減らした上に、市町村に対し国庫負担の削減というペナルティーも課しています。低所得者が多く加入し、保険料に事業主負担もない国保は、もともと国の適切な財政支出があって初めて成り立つ医療保険です。先月11月16日には熊本県社会保障推進協議会により、国庫負担割合を元に戻すことを求める意見書も提出されています。

市長は、これまでも国、県に対しても要求していくと答弁されていますので、ぜひ国への意見書提出を強くお願いいたします。いかがでしょうか。

**○議長（堀江 隆臣君）** 市長。

**○市長（川端 祐樹君）** これは熊本県市長会並びに九州市長会、そして全国市長会において提言されております。

**○議長（堀江 隆臣君）** 宮下君。

**○5番（宮下 昌子君）** よろしくお願いたします。

さて、現在の上天草市の国保の状況ですけれども、9月議会での質問に対して、19年度から21年度にかけて滞納者はふえているという答弁でした。その滞納の主な理由は何だと思われますか。

**○議長（堀江 隆臣君）** 市民生活部長。

**○市民生活部長（佐伯 秀昭君）** 端的に申し上げますと、やはり先ほどから出ておりますように、雇用の場とかが確保されていない、いわゆる経済に対して脆弱な状況のために、やはりそういう点も出ていると思っております。

**○議長（堀江 隆臣君）** 宮下君。

**○5番（宮下 昌子君）** やはり失業とか、雇用が正規雇用ではなくて非正規雇用で収入が少ないとか、高齢者の増加とか、そういうのがあると思います。国保の場合は、加入者の約半分が低所得者という上天草市の現状ですけれども、払いたくても払えない国保税となっているのが現状です。

この現状ですが、対策はどうしたらいいとお考えでしょうか。お聞きしたいと思っております。

**○議長（堀江 隆臣君）** 市民生活部長。

**○市民生活部長（佐伯 秀昭君）** 先ほど申し上げましたように、対策についてはやはり経済の好転、いわゆる改善の見通しが図れるかどうか、私たちといたしましては好転することを願っております。

担当部署といたしましては、税務課、納税課におきまして防災行政無線を活用した納期内の納付の推進や納税相談、それから新規滞納者に対しての電話催告及び11月の滞納整理強化月間、年度末の臨戸訪問を実施いたしております。また、熊本県と共同で市内の事業所を訪問し、普通徴収から特別徴収への変更をお願いいたしておりますし、納税者の徴収回数をふやしまして毎月の負担を減らすことで納税の確保を図っているところでございます。過年度の滞納者につきましては納税相談の実施を行い、誓約書の履行がない滞納者や納税に無関心の納税者に対しましては、市民の9割以上の納税者との公平を保つため、税法に従いましてタイヤロック、預金差し押さえ等を実施し、それから滞納者数、滞納額の増加を抑える取り組みに努力しているところでございます。

○議長（堀江 隆臣君） 宮下君。

○5番（宮下 昌子君） 今の対策としましては納税課の対策ということでございますが、くれぐれも滞納者に対しての強力な取り立てというのは控えていただきたいと思います。払いたくても払えないというのが現状だと私は思いますので、お願いしたいと思います。

この対策としては福祉課のほうでの対策もあると思います。医療費の削減をするための対策とかがあると思いますが、その辺はいかがでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（杉田 省吾君） 医療費を抑えるためにということでございますが、やはり今現在、医療費を抑えるために特定健診とか、そういう健康づくりについて市民の皆様には講演会や、各地区を巡回して健診の必要性や、医療費を抑えるための施策を説明して回っているところでございます。

また最近においては、ジェネリック医薬品等のお願いをしているところでございます。ジェネリック医薬品というのは、今回国保連合会で共同システムによって、県内保険者の調剤レセプトの分析が可能となっておりますので、平成23年度から実施予定としていましたジェネリック医薬品の使用についてですが、今回前倒して23年2月から市もやっていきたいと思っております。協会けんぽにおいては、本年の11月から実施しておりますし、熊本県の健保においては1月から実施するというところで聞いております。

○議長（堀江 隆臣君） 宮下君。

○5番（宮下 昌子君） 健診など予防対策をやはり強化して医療費を減らすということが、国保税の引き下げにもつながると思うんですけども、究極の対策は高い保険料を引き下げることだと思います。前にも市長は答弁しておられましたが、一般会計の繰り入れも同額か、今後ともふやしていく方向で検討したいということをおっしゃられたので、ぜひ引き続きお願いしたいと思います。

それで、この減免制度ですけれども、低所得者に対する減免制度というのがありますが、窓口負担の軽減策というのは上天草市ではどうなっていますか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（杉田 省吾君） 窓口負担については軽減措置というところはありませんが、医療機関で払っていただくと。大変申しわけありません、後で説明させていただきます。

○議長（堀江 隆臣君） 宮下君。

○5番（宮下 昌子君） わかりました。会社の倒産とかリストラなどで職をなくした人たちが、本来は社会保険から国保に変わる手続をしないといけないんです、これは皆保険ですから。しかし、保険料が払えずにそのままにしている人もいます。この減免制度があることも周知徹底していただいて、事実上の保険証のない人が出ないようにするのも行政の責任かと思えますので、ぜひその辺もお願いしたいと思えます。今後も病気の早期発見と医療費の削減のために、目標を持った努力をお願いしたいと思えます。

次に、国保の広域化に移りたいと思えますが、この国保の広域化という問題は、現政権が進めています。11月28日の新聞では、新聞社主催の全国首長アンケートの結果が載っておりました。全国の知事や市区町村長の56%が国保の広域化は制度維持に欠かせないと考えているという結果でした。

市長はこのアンケートにはお答えになりましたか。国保の広域化については、どう考えておられるのかお聞きします。

○議長（堀江 隆臣君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） アンケートに答えて、国保の広域化は進めていただきたいという回答をしております。

○議長（堀江 隆臣君） 宮下君。

○5番（宮下 昌子君） では、福祉部長にお聞きします。国保が広域化になった場合の我が市のメリット、デメリットはどうお考えでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（杉田 省吾君） 前段で予定していたんですけれども、広域化のメリット、デメリットということに対してお答えいたします。

市町村国保の経営体を広域化した場合の最大のメリットは、現在後期高齢者医療制度で実施されている県内同一の保険料設定が可能となることとございます。保険料を統一した場合、市町村間での保険料に対する不公平感は解消し、わかりやすくなります。デメリットとしては、現在のところ上天草市においては広域化のデメリットはないと考えております。

○議長（堀江 隆臣君） 宮下君。

○5番（宮下 昌子君） この広域化ですけれども、小規模自治体で国保を運営するから赤字となり、広域で運営すると財政が安定し黒字になるかという、現実はそのではないと思えます。最初に言いましたように、国保の財政難の原因は国庫負担の削減にあります。国の予算を削減したまま、国保を寄せ集めても、弱い者同士の痛みのわかち合いにしかならず、財政や制度の改善にはなりません。

熊本市の累積赤字は82億円だそうです。加入者1人当たりの保険料は約9万3,657円。ちなみに

上天草市は7万9,000円です。こんなところと一緒にになったらどうなるのでしょうか。結局我々の負担がふえることになるのではないかと思います。

広域化は各市町村の累積赤字も大きな問題になってきますし、現在どこの自治体でも保険料を抑えるために一般会計からの繰り入れをしています。広域化されれば繰り入れがなくなり、保険料が値上げになることも考えられます。上天草市でも一般会計からの繰り入れで、保険料の引き上げとならないように努力されております。これは市に権限があるからこそ、そして住民の顔が見える小規模の自治体だからこそできることです。国保の広域化は、市が住民の命を守る仕事を放棄することにつながると考えます。

国民健康保険法の第1条では、社会保障及び国民保険のための制度と規定しています。また、第4条では、運営責任は国が負っていることを明記しています。国保法の本来の理念は、国の財政支出のもと、基礎自治体である市町村が保険、福祉とも連携しながら住民に医療を給付する社会保障の仕組みとなっています。払いたくても払えない国保税から、払える国保税へ。市が今すべきことは、国に対して国民医療を守る責任を果たすように求めることです。そして、国への要望とともに医療費削減のために予防対策を強化していただくことをお願いして、次に移ります。

次は、新年度予算についてですけれども、財政問題については今回の議会でも一般質問でいろいろ取り上げてこられました。私は新年度予算について質問したいんですが、12月になり、新年度予算の骨格がほぼ決まったところではないかと思いますが、予算編成で重視されたことは何でしょうか、お聞かせください。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） 予算をつくる上で、一つの決まり事がございます。これは、市の予算事務規則に書いてございます。この第4条に、総務企画部長は市長の命を受けて会計年度ごとに予算編成方針を定め、部長等及び課長等に通知しなければならないという条文がございます。そういう中で予算編成を行っておりますが、リバイバルプランを策定したことによって、選択と集中という言葉を使うようになりました。あれもこれもではなくて、あれかこれかという中で予算編成を現在行っております。ということは、限られた予算の中で予算の質をいかに高めるかという基本に立って予算編成を行っております。

平成23年度の予算編成方針においては、重点施策として、将来を担う子どもたちの学校教育の充実を図る。つまり、教育環境整備事業であります。また、新たな地域からの観光客誘致や受け入れ体制の確立に取り組む。これは観光振興事業であります。3番目に、企業誘致を初め地場産業の育成、雇用の拡大を図るということで、経済、産業、就業支援ということの3つの重点を定めております。

そういうことで23年度の予算編成方針は決めております。

○議長（堀江 隆臣君） 宮下君。

○5番（宮下 昌子君） 今の部長の答弁ですけれども、とりあえずは市長選もありますし、暫定予算となるかと思えます。初日の答弁で市長が、大きな流れとしては都市計画と経済振興に

着手すると言われたと思います。市長は就任以来、再生と自立を掲げられ、リバイバルプランによる財政再建を強力に推し進めてこられました。

初日の答弁で総務企画部長は、経常収支比率などの改善で14市の中で6番目になるまで改善されてきたと強調されました。確かに19年、20年、21年と繰上償還をされ、実質的将来負担額が35億円ほど減少しています。私もこのことについては評価すべきことだと思います。

市長は昨日の答弁では、財政再建の結果、基礎体力はついてきたと言われました。しかし、借金が減ったといっても、まだ21年度決算で204億円も残っており、標準財政規模は184%です。公債費負担比率は通常は15%で危険なレベルとされているんですが、これは19.3%に上っています。経常収支比率も80%を超えると弾力性を欠くと言われておりますが、我が市は91.7%という数値です。これは弾力性のない状態が続いていると私は思います。

確かに少しずつ改善はしております。きょうの午前中も質問で、好転ではないと言われましたが、私も好転したという言葉を超えて余り使わないほうがいいのではないかと思います。この数値から言っても、実際に本当にいろいろ頑張っておられておりますので、その辺は評価をしますけれども、この数値から見ても好転したとか基礎体力がついたとは、私には思えません。

しかも重要なことは、このことが市民生活にしわ寄せをしてきた結果ではなかったかと。これは市長も認めておられますが、これを見る必要があります。補助金のカットや手数料、使用料の値上げなど、市民生活にも大きな影響があったのは事実です。また、税金の滞納者への非情な制裁もありました。景気の回復の兆しも見えず、市民には悲壮感も漂っております。財政が好転したのなら我々にも少しは回してほしいという市民の声も聞こえてきます。私も好転したとは思いませんので、余りこの好転したという言葉はいかがかと思えます。このことについてはいかがお考えでしょうか。数値の問題です。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） 好転という言葉ですけれども、私自身きょうのお昼休みに改めて広辞苑をひもといてみました。これは何もおかしい言葉ではありません。いい方向に転じるということですので、全く広辞苑に書いてあるとおりでと思います。ただ、ここで万全かという、そうではないと思います。その一つとして、自主財源が非常に少ないということは認めませんので、盤石とは言いませんけれども、市民の期待にこたえつつあると。その改善の方向できているということだけは御理解いただきたいと思えます。

それで、先ほど実質公債比率、21年度の実績を18%台でおっしゃったんですけれども、3カ年平均で16.1%まで持ってきております。一番悪いときが18.9%ということです。このときには、この間から言っておりますが、危機的な状況でございました。これが仮に第二の夕張になってもおかしくないような状況でしたので、あのまま放置して財政運営をやっていたならば、今ごろはひょっとすれば国の管理下に置かれて、市民生活はもちろんのこと、いろんな部分でとんでもない世界ができていたのではないかと思います。そういう意味からしますと、市民の皆様のお協力なり職員の頑張りによって、ここまで持ってこれたと思っておりますし、ぜひその点に

については評価をいただければと思います。

○議長（堀江 隆臣君） 宮下君。

○5番（宮下 昌子君） 私も評価をしております。川端市長がマニフェストによって、まずは財政再建だということで一生懸命頑張ってきておられますので、確かにそのところは数字にもあらわれておりますので、そこは私も評価はしております。ただ、市民感情として好転したという言葉が聞くと、これは私もおかしいことではないと思いますけれども、市民感情として今この景気が悪い中で皆さんの所得が大変少なくなってきました。そういう中で、こういう言葉が流れていくと市民感情としてどうかと、私の耳のところにもいろいろ入ってきますので、そういうふうにしたわけです。

部長はこれまでの答弁でも、財政調整基金と減債基金合わせて20億円にしたいと思ってやってきたと答弁をされております。財政調整基金は平成21年度に8億7,500万円、平成22年度に見込みで14億7,700万円です。せめてその半分ずつを社会弱者の生活向上に役立てる財源として、それぞれ4億3,500万円、7億3,800万円というのが活用できるんです。

私は昨年質問の中で、県内14市の中で最下位にある市民所得を引き上げるために最大限の努力をしてほしいということをお願いしました。払いたくても払えない高い国保税、仕事をしたけれども仕事がない、生活ができないという人たち、私のところには何か仕事がないでしょうかと訪ねてこられる方がいます。年齢も若い人から高齢者までさまざまです。先日も70歳を超えた方が、シルバーに登録しているけれどもほとんど回ってこない、年金もわずかで生活ができない、何でもします、何かないでしょうかという電話がありました。シルバー人材センターも、今は生活するための手段となっているのが現実です。生活ができないという人たちがいる現状をどうお考えでしょうか、お聞きします。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） 今、緊急雇用というのをやっておりますけれども、これを見ておわかりのとおり、昨年度から合わせますと300人を超える雇用を行っております。これを見て多分皆様は、現在の上天草市の市民の縮図を見られているような思いがされたのではないかと思います。大変な暮らしぶりだという部分は認識しております。

それと、先ほどのことなんですが、市長がタウンミーティング等で繰り返し言っておりますのは、最後のとりでと言いますか、セーフティーネット、これは国でも県でもない、市だと。市が最後は市民を守らなければいけない、守る義務があるということを繰り返し言っております。そのためには、やはりそういう火急の場合に備えての蓄えも当然必要となってまいりますので、宮下議員が御指摘のとおり、もう少しほかの部分に予算を――。

○議長（堀江 隆臣君） 総務部長、2分を切りますので、端的に答弁をお願いします。

○総務企画部長（永森 良一君） そういうことも視野に入れての財政運営をしておりますので、財調は現在の水準を守っていくべきではないかと私自身は思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 宮下君。

○5番（宮下 昌子君） 時間もなくなりましたので、少しまとめてみたいと思います。

市長にも聞いてみたかたんですが、この上天草市の現状ですが、底辺で生きている人たちをどう救い上げるかという努力を、ぜひしていただきたいと思います。財政調整基金への大きな積み上げも、数字上は財政の好転と言えるのかもしれませんが、しかし、私には市長選を前にして御自分の成果を強調するための積み立てとしか思えません。上天草市の現状に余裕はないのです。自治体は企業ではありません。住民の福祉の向上、すなわち社会的弱者にどれだけ手当てをして底上げをするかが使命のはずです。だからこそ、市長の施政方針にも、子どもやお年寄りに優しい予算とうたっておられると思います。財政指数は正直です。目に見える温かい手当てをされたら数字以上の膨らみを持って、必ず市民に映ることを確信いたします。新年度予算が、格差が目に見えて進んでいる現状に明るい話題となる施策を講じ、希望の持てる上天草市へ前進する予算となることを願って、私の質問を終わります。

○議長（堀江 隆臣君） 以上で5番、宮下昌子君の一般質問が終わりました。

ここで10分間休憩いたします。

休憩 午後 2時01分

---

再開 午後 2時10分

○議長（堀江 隆臣君） 休憩前に引き続き、再開します。

10番、川口望君。

○10番（川口 望君） 10番、会派みらい、川口望です。最後となりましたので、本当に皆さんもお疲れだと思っております。また今回も私は12番という一番最後の番数を引いてしましまして、紅白でいえば大トリ、マラソン大会でいえばどべということです。喜んでいいのか、これはしょうがないことです。

では早速、早く終わりたいと思いますので、質問に移りたいと思います。

今回通告してある2点について、自殺対策について、もう一つが農業振興についてお聞きしたいと思います。

まず一点目の自殺対策についてお聞きいたします。今、我が日本で自殺者数がことし1月から10月までに2万6,340人と、今年度も3万人台のペースであるということ、平成10年度以降、12年連続3万人を超えるという結果になるそうです。しかも、先進国の中でも非常に自殺率も高い水準であるとのことでもあります。政府としても平成18年に自殺対策基本法を施行しており、いろいろな対策をとっているようではありますが、施行後になっても3万人も超えているというのが現状であります。

そして、この問題というのが上天草市にとっても非常に深刻な問題だと考えております。実際、私の身近なところでも起きている問題でもありますし、残された家族の苦悩も目にしております。そこで、昨年行った自殺に関する意識調査をもとに、どのような対策をとっておられるのか。また、今後の計画についてお聞きいたします。



まず1番目、合併後の自殺者数ですが、年代別、地域別でわかればお聞きしたいと思います。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（杉田 省吾君） 川口議員から、以前からそういう話を伺いまして、自殺対策について私たちも調べているところでございます。前回9月議会で一般質問がありまして、昨年からは自殺対策の緊急事業で上天草市も取り組んでいるところでございます。

今御質問の、合併後の自殺者数ということでございます。合併後の自殺者数は年度別といたしまして平成16年度が13名、17年度で11名、18年度16名、19年度4名、20年度13名、21年度9名、計66名と報告されています。

それから年代別でございますが、19年から21年までの26名の方に対して年代別で見ますと、20歳代が2名、30歳代が2名、40歳代が7名、50歳代7名、60歳代2名、70歳以上が6名ということでございます。

なお、御質問の地域別ということでございますが、地域別のデータに関しては自殺者の個人が特定される可能性があることもあり、県からの情報提供もなされておられません。

以上です。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） 合計が66名ということですね。なかなか自殺者に関しては、正確な数字がわからない部分もあると思うんですけども、大体予想でいえばこの倍ぐらいと認識してよろしいでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（杉田 省吾君） 私も答えるところが、どう答えていいかわかりませんが、実際のところは66名以上になるかと思いますが、これはあくまで警察の検死の結果で、6年の間の66名ということでございますので、これが公式の人数かと思いますが。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） 続きまして、相談件数と内容をお聞きしたいと思います。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（杉田 省吾君） 相談件数は、経済問題から健康問題、家庭の問題、地域の問題といろいろあります。福祉課の窓口で相談を受けた件数でございますが、内容といたしまして心の悩みや健康問題等の心配事の相談でございます。毎月第2、第4木曜日に大矢野老人福祉センターほかの施設で、相談員として精神保健福祉士とか保健師、看護師等が当たっております。面談の回数としましては255件です。

それから、社会福祉協議会が同じように悩み事相談を実施しております。これも各社協や老人福祉センターで実施しております。相談員としては民生委員、児童委員の方が合わせて400件でございます。

それと商工観光課で、消費生活の買い物トラブルとか、多重債務とか悪質商法とかの相談を受けているのが22件でございます。

福祉課で相談を受けました255件の内容は、先ほど言いましたとおり、健康問題や経済問題、家庭の問題、多岐にわたっておりまして、その分類については集計しておりません。また、先ほど言いました社協でも400件と、観光商工課で22件。観光商工課においては本年9月までで75件と急増している状況でございます。

以上です。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） 相談を受けた、その後の対策というのは何か市のほうから、例えば連絡先あたりを聞いて、その後の安否あたりとか。一番の原因の一つとしてうつ病が非常に多いという話を聞いておりますけれども、例えば健診を勧めたりとか、そういった対応は行っておりますでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（杉田 省吾君） 担当課であります福祉課の障害福祉に保健師が2名おりまして、そのほか事務もおりますが、相談を受けましたら病院なり保健所なりの指導を受けながら受診の勧めとか、そういう問題解決といいますか、つなぎをやっております。

以上です。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） わかりました。実際66名の命がなくなっているということです。全国の昨年度の交通事故死亡者数が4,900人弱ですので、自殺の死亡者数は大体この約5倍ぐらいの人数であるわけです。実際、政府としても自殺の対策の基本法、大綱あたりも記して取り組んでいるんですけれども、自殺対策の予算措置はどういった形で今年度は組んでおりますでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（杉田 省吾君） 自殺対策は県の事業を100%活用して、現在21年度から23年度においてやっている事業でございます。その事業の内容については、御説明していきたいと思いますが。

○10番（川口 望君） お願いします。予算額も。

○健康福祉部長（杉田 省吾君） 熊本県緊急自殺対策事業の補助金を活用して実施しております。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） 金額的には幾らぐらいでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（杉田 省吾君） 大変申しわけありません、確認しておりません。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） では、次に進みます。

今聞いた部分というのは現状の取り組みとしてとらえてよろしいわけですね。（「中身は」と

呼ぶ者あり)

では、取り組みもお願いいたします。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（杉田 省吾君） 現状の取り組みということでございますが、先ほどの予算は大変申しわけありませんでした。後で報告させていただきます。

平成21年度から23年度まで、先ほど言いました自殺対策緊急強化事業というところで取り組んでいるところでございます。昨年はアンケート調査を実施しまして、住民の心の健康状態を把握しているところでございます。それから、地域に密着した対応ができるよう、地域の相談役である民生委員さんを対象に、精神疾患や自殺対応についての基礎知識を身につけるため、研修会を実施しております。2会場で38名の参加でございました。

それから、パンフレットや広報活動において、住民の自殺防止啓発講演会を実施しております。本年1月29日アロマホールで、180名の参加でございました。

それから、2年目に入りまして本年度は、21年度に実施しましたアンケート調査を分析し、今後の市の事業に生かすための基礎資料として作成しております。

それから、地域に根差した人材育成ということで、地域リーダーの育成ということでございます。昨年に続きまして、民生児童委員の方に対して面接技法の講習。また、職員対象としまして本年10月、2回にわたりまして自殺予防の研修会。12月には新しい民生委員さんを対象としまして自殺の現状とうつについての講習会をやりたいというところです。それと、住民が広報活動や講演会に、自殺に対する正しい理解ができるよう普及、啓発を実施していきたいというところと、あと広報紙の掲載を予定しておりますし、商工会登録業者へのパンフレットの配布というところでございます。

それから先日、11月に実施しました心の健康づくりでございます。これは防災無線とか、熊日にもお願いして記載していただきましたが、100名の参加でございました。益城病院の松永副院長によります講演でございました。議会からも新宅議員が参加されておりました。

今、現状の取り組みとしては以上でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） いろいろ行っていると思います。ただ、今聞いた事業内容にして、例えば、本当に心の悩みがある人がそういった事業に参加しているかどうか、そういった部分というのは、多分行っていないと思います。でなかったら、こういう事業も空鉄砲になるわけです。

この自殺対策については、国としてはフィンランドあたりが国家的に自殺対策に取り組んで、かなりの量の死亡者数が減ったという内容がこの白書に書いてあります。まず現状で何をしなければいけないかというと、自殺に対しての分析です。それまでに至る分析、周りの情報収集を的確にやるべきでないかと。そういった部分の確認の調査というのは非常に必要だと思いますけれども、そういった部分の活動はしておられますでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（杉田 省吾君） 現在のところ、深く突っ込んだ研修はまだやっておりません。今後、ゲートキーパーと申して、横文字で大変申しわけありません、そういう方を見守っていかうと、気づいていかうというところで、ゲートキーパーの人材育成も必要ではないかということで、県でも取り組みはありますし、私たちが今後そういう方を育成していく必要があるかと思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） この自殺というのはあらゆる複合的なところで起きていることだと思っております。自殺に関しては、総合対策大綱において、自殺は防ぐことができるという認識を国も示しているわけです。ですから、まず上天草市としても、例えば自殺予防月間とか、それこそ防災無線でごみを拾いましょうではないですけども、あしたは何かあるから頑張っていきましょうとか、そういった部分の啓発もかなり必要ではないかと思えます。

それと、市で今、自殺対策プログラムあたりは作成しておりますでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（杉田 省吾君） 現在、庁舎内で自殺に対して検討する必要があるということで、今川口議員が申されましたとおり、現在の背景とか、自殺は予防できるというところをございまして、担当部署だけではどうしても効果が発揮できないところもあるかと思えますので、関連のある庁内の関係部署と連携して、今月上天草市の自殺対策庁内連絡会ということをして、先日の部長会や課長会でもお願いして、人選して今月中にその連絡会を組織しまして、自殺対策の総合的な検討を進めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） 実際、家族が気づかないという部分はやっぱり多いわけです。なかなか非常に難しい問題だと私も思っております。できればこういった連絡会の設置も、私は早くつくってほしかったというのが現状です。死んでしまえばどうもこうもならないですから。ですから、そういった措置をする上では、1名でも減るような対策を練っていただきたいと思っております。この自殺を考えた場合、一人の命が簡単になくなってしまふと。残された人生、本当にいろんなことがあると思うんですけども、自分で自分の命の絶つと。相当思い悩んだ結果だと思っております。

それと、死んだ後の家族の心の傷も相当なものがあると思うんですけども、そういった残った家族に対しての心のケアあたりは行う予定はありますでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（杉田 省吾君） 端的に申しますと、やはり自殺で残された遺児や家族についてはデリケートな問題かと思えます。県のほうでも自殺の遺児のフォローをやっておられます。そういう専門的な人材育成も必要かと思えますけれども、現在のところ、そこまでスキルのあ

る職員がいないかと思っておりますので、あらゆる機関と連携して、そういうところにつなげていければと思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） 残された家族の皆様の、死んだ本人以上に悲しまれておられる遺族の方もかなり多いと思っております。私の身近でもやっぱりおりますので、今後そういったことを起こさないように啓発をしていただきたいと思います。

11月10日の熊日に自殺対策不足浮き彫りという記事も載っております。我が市の自殺率は、県平均の大体倍ぐらいの結果になっております。実際自殺の多い町に住みたいかといえば、だれでも住みたくない。これは地域をもって取り組んでいかなければいけないことだと思っております。

市長はこの自殺対策に関してどう思われているかお聞きしたいと思います。

○議長（堀江 隆臣君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） この自殺の問題は、私も社会問題の大きな問題であると認識しております。交通事故死よりも多い数でございます。この問題に関しては、やはり社会全体でセーフティーネットを張るということが必要だと思っておりますので、行政活動においてもですけれども、地域のいろいろなボランティア団体との協力、連携の上で、1件でも減るような取り組みとして進めていきたいと思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） これは行政で、全力で取り組むべき最大のことだと思っておりますので、ぜひともよろしく願いいたします。

続きまして、小中学校における取り組みについてお聞きしたいと思います。

○議長（堀江 隆臣君） 教育部長。

○教育部長（村枝 誠二君） それでは、小中学校における自殺対策の取り組み並びに今後の対策につきましてお答えいたします。

小中学校の児童生徒の自殺につきましては、いじめを苦にした自殺や、自殺の低年齢化の傾向が見られることなどの問題があり、自殺防止への対応は教育上の重要な課題となっているところでございます。

先日も群馬県で小学生の女の児童がいじめを苦に自殺が起こり、それに端を発した自殺の連鎖が心配されているところでございます。

このような状況の中で、文科省では児童生徒の自殺防止についての一層の充実を図るために、児童生徒の自殺の特徴や傾向などを分析しまして、自殺防止に関する基礎的な知見をまとめ、学校現場に資する自殺防止の対応方策について検討を行う、児童生徒の自殺予防に向けた取り組みに関する検討委員会を開催するなど、児童生徒の自殺防止に向けた審議が進められてきたところでございます。

これを受けまして、平成19年6月には児童生徒の自殺防止に向けた取り組みの充実について

の通知文の配信、平成21年3月には教師が知っておきたい子どもの自殺防止と題した自殺予防のマニュアルとリーフレットが全国の小中学校に配付されました。教育委員会におきましては、これらの各学校において、適切な活用を図るよう周知徹底を行っているところでございます。

本市の小中学校においては、自殺を対象とした直接的な学習の機会は設けておりませんが、道徳教育の観点、健康教育の観点から生命尊重をねらいとした学習及び体験活動を計画的に展開したり、命を大切にすることを旨とする指導計画を作成し、生命尊重に関する教育活動を関連づけまして、総合的に指導を行うなど、児童生徒の生命を大切にすることを心がけて取り組んでいます。

また、教育相談を初めアンケート調査などの児童生徒の心の状態の把握と、ケアに努める体制を整備するなど、諸問題への対応に万全を期しているところでございます。

さらに、児童生徒及び保護者、教師に対し、専門的な見地から助言するスクールカウンセラーやいじめ不登校アドバイザーの配置を行っております。現在、スクールカウンセラーは大矢野中学校に配置いたしまして、不登校アドバイザーは教育委員会に在籍しております。教育委員会においても生徒指導担当者研修会を開催し、生徒指導上の諸問題への対応についての研修を実施いたしております。先日の研修会においては、いじめ問題の解決に向けた指導のあり方について研修を開き、その中で児童生徒のいじめによる自殺の現状と、予防について触れ、認識を新たにしているところでございます。

また、保護者を対象とした相談会を月に1回開催し、家庭の悩みに対応できるような家庭への相談体制も整えております。

以上のような取り組みにより、現在本市におきましては児童生徒の自殺事案は発生していません。しかし、社会の変化、価値観の多様化、子どもたちの心の空洞化が指摘される状況でありますので、今後も学校に対しての児童生徒の生活状況の把握を徹底することはもちろん、だれもが楽しく豊かな学校生活を送れるよう生活指導と、学ぶ喜びが実感できるような学習指導を展開するよう学校に対して強く指導に努めるよう申し合わせ、お願いをしているところでございます。

こういった中におきまして、ちなみに平成21年度における市内の小中学校のいじめの実態ですけれども、小学校におきましては14校で児童生徒数1,646人のうち188人で、いじめを受けた割合といたしましては11.4%。それから中学校におきましては、9校で児童生徒数923人のうち、いじめを受けたは生徒33名で3.6%。全体でいじめを受けた児童生徒は、児童生徒総数2,569人のうち221人で、いじめを受けた割合につきましては8.6%ということになっております。

以上でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） これは県内においても、いじめの認知数は非常にふえてきておるといことで、いじめに対しては結構小中学校あたりでも素早い対策をとっているというのは、私も非常に感じてはおります。

全国的に指導がなされているわけですね。その中でもやっぱり自殺の例が出てくると、ある程度、上天草市独自の自殺対策あたりも、私は義務教育の中で本格的に導入するべきではないかという気持ちもあります。

きのう市長が答弁の中で言われた修身教育です。本当に強い人間をつくるという教育は、私も必要だと思います。本当に今の子どもというのがコミュニケーション能力の低下、相手をするのはゲームとテレビだけという現状もあります。

きのうの市長の言われたことに似たような内容で、ライフスキル教育というのがあります。簡単に言うと生きる力を伸ばすような教育です。

それともう一つは、私は結構企業のセミナーとかに行くんですけども、決まって言われるのが新入社員は仕事をできない、怒ればやめると。県内の5年以内の離職率もかなり高いと思います。それと、どうしても打たれ弱い学生が多いと。そういった部分で、経済産業省が提言している社会人基礎能力をつけるためにも、今の高校あたりのキャリアサポート、今前田部長かだれかされていると思うんですけども、そういった部分も非常に教育では必要ではないかと、私も非常に強く思っております。

いろんな部分で、確かに現状の教育でも取り組んでおられるとは思いますが、やっぱり結局自分の問題で、自分で解決する力や問題発見能力も伸ばしてやらないと本当はいけないという部分はありますけれども、現状でもそういった指導はあると思います。

それともう一つは、平成16年に83人の教員が自殺をしております。これは最高だと思うんですけども、先生が死ぬのに、死ぬ先生が子どもを教えていいのかとも感じております。教員の指導、そして強いコミュニケーションのとれる子、どんな状況でも負けない子、そういった部分の教育というのは現状しておられるのか。また、していなければこういった部分を教育プログラムの中に取り込む必要があるのではないかとこのことを強く思うんですけども、そこら辺を教育長にお聞きしたいと思っております。

**○議長（堀江 隆臣君）** 教育長。

**○教育長（鬼塚 宗徳君）** 自殺という自分の命を絶つというのは、あってはならないことでございます。したがって、今学校教育の大きなねらいの中に、今川口議員がおっしゃいましたように生きる力を育てるとというのが目標でございます。生きる力とはどういうことか。例えば、知識、理解を得ることはもちろんですが、物事をいろいろと判断する力、これを判断力あるいは思考力、考える力です、表現力とか言っております。こういうことをしっかりとやらなければ、考える力がなければ生きていくことができない。それと健康な体をつくること。それから、道徳教育と言いますか、今議員がおっしゃいました精神力、いろんなことに打ち勝っていく力を養うこと。こういうことが生きる力をはぐくむための大きなねらいでございます。そういう観点から学校教育の中では、生きる力をいかにつけてやるかということに取り組んでおります。

それと、今言いましたように、自殺の大きな原因の一つにいじめがございます。いじめもいろいろあります。物質的なものを要求することから暴力的なことへと移っています。あるいは、ち

よっとしたいたずらです。熊本県はいじめが全国一なんです。しかしながら、解消率はまた全国一でございます。つまり、真面目にいじめられたと言っているんです。程度の差はあれ、不快に思ったことはすべていじめであるというらえ方。いじめられた側に立って物事を考えていくということです。ですから、熊本県は非常にいじめが多いと言いますけれども、これであつたら熊本県はいじめが一番多いし何をしているんだと言われますけれども、今のところ小中学生で自殺がありません。それで、ほっとしておるところでございます。日ごろから、もちろん文部科学省の通達もあります。

それから、子どもに命の尊さを教えるために何をしているかという、保育園に出かけていって体験学習をしております。そして、1歳ぐらいの赤ちゃんを抱いてあやしたりすることによって、生命の誕生からどうして生きていくのかということをお教えるんです。ほとんどの中学生が、子どもはかわいいという体験をして、その成果を発表してくれます。

それから、保健体育の時間には、生命の生まれてくる誕生の様子をすべてビデオ等で見せています。だから命を大事にしなくてはいけない、この世に生まれてきてから自分の命を絶つということは親不幸もいいところなんですということを、教師側にも徹底をいたしています。そういう体験活動、道徳の時間等をフルに使って、今言った自殺対策、命を粗末にしない教育というものを徹底をいたしているところでございます。

それから、教職員については御指摘のとおりです。最近、私どもの管内でも3カ月、6カ月休養している教職員がおります。というのは、いろんな今の社会の、例えば学級での指導がうまくいかなかったり、親御さんから突き上げがあつたり、最近の親御さんはモンスターペアレンツと言っておりまして、ちょっとしたことでも苦情がいっぱい来いています。自分の子ども中心に考えておられるから、そういう苦情が来るんですけれども、全体のことが見えない。それに、教師側も育っていない。したがって、うつ的な症状が出てきております。これを何とかしなければいけないと思いますが、私たちの手ではなかなか難しく、専門のお医者さん等の治療を必要とします。そういうようなこともたくさん出ております。だから、そういうことが今後少なくなるような強い教師を育てていくべきだと考えております。

以上でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） 先生といえば学校では親がわりなわけですから、親も安心して預けられるような先生をぜひ育成していただきたいと思います。

結局、小中学校あたりでそういったことをされていると思います。ただ、成人して大人になって、結果的に現状は死んでいるわけです。ですから、きのうの市長の答弁でも言われましたけれども、一步踏み込んだ上天草市独自の教育プログラムというのも、私もある程度必要かと思うんですけれども、市長はそちらについてはどう思われますでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） 文部科学省のやり方以外にも教育のやり方はありますから、上天草市



にあったものは進めるべきだと思いますし、逆に言いますと、特区をとってまででも新しい教育のあり方を模索する時代にも入っているのではないかと思います。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） 特区も、私も言おうとしたんですけれども市長が言われたので、ぜひそういった部分も力を入れてやっていただきたいと思います。

それともう一つ、これは田中議員から聞いたんですけれども、やっぱり地域性もあると。島国根性ではないですけれども、やっぱりなかなか、両隣、地域の人たちがみんな顔を知っていると。そういった中ではなかなか相談しにくいという場もあると思います。ですから、小まめなそういった相談が受けられる場所の設置あたりも今後必要だと思いますので、そういったものもいろいろ考えていただきたいと思います。

次に、自殺者1名に対しての我が市への影響、影響というのは金額で表示していただきたいんですけれども、わかりますでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（杉田 省吾君） 自殺、うつ病の経済損失ということで厚生労働省が本年9月に発表しております。自殺は本人だけでなく、先ほども川口議員から何度となく言われておりますが、家族や友人など身近な人々にとってはかり知れない大きな悲しみ、影響をもたらすものでありまして、また、社会においても大きな損失であります。

厚生労働省が発表しました資料によりますと、平成21年における我が国の自殺者数3万2,845人のうち、15歳から69歳の方が70歳まで働き続けたとして得られる所得は1兆9,028億円と試算されております。生涯賃金の算出方法はいろいろあるかと思いますが、統計から逆算しますと、15歳から69歳までの方が約2万6,500人といたしますと、1兆9,028億円を割っていただくと、1人当たり7,100万円の損失ということになります。

我が市でそのまま換算していいものかわかりませんが、換算しますと上天草市の場合、昨年度69歳までの方が6人いらっしゃいます。それで換算しますと、全体で4億2,600万円の経済損失になるだろうと試算されます。

以上です。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） そういった莫大な金額も計算上、丸々この金額とは言えないですけれども、1名自殺者が出るたびに我が市のお金が消えていくと考えております。

先ほど、宮下議員の移住・定住の促進も確かに大事だと思いますけれども、まず上天草市で生きている人間が安心、安全で、悩みなく笑顔で過ごせるような自治体となってほしいです。

この自殺対策については、来年市長も選挙がありますけれども、本当はまず第一に上げてもいいことだと思います。そういった部分も考えていただいて、市としても取り組んでいただきたいと思います。

次に、農業振興について話を移ります。農業振興については、加工施設の進捗状況は高橋議員

も言いましたし、T P Pについては最初に窪田議員も言われましたので、余り内容的にも少なくなっただけですけども、まずこの1番のイノシシ対策は、北垣議員に譲っていただきましたので、一番力を入れて私も言おうと思っております。

議会報告会の教良木地区での開催で、本当に大半の時間をこのイノシシ問題について言われました。非常に深刻な問題だと私も思いました。電話でも実際に言われています。大矢野の議員が力を入れないからイノシシが減らないのだと言われておりますし、本当にきつくイノシシと議員の数も減らせという言葉も言われております。本当に内容的には早急に取り組まなければいけないという部分も強く感じました。

経済振興部長も、教良木地区というイノシシの巣に住んでおられますけれども、今後その点で、非常に周りからも強く言われている部分もあると思っておりますけれども、まずこのイノシシ対策についてお聞きしたいと思います。

まず、今までの成果とありますけれども、21年度と22年度現在までの成果をお聞きしてよろしいでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○経済振興部長（坂中 孝臣君） 私も地域的には教良木地区に住んでおりますけれども、結構いいところです。

先ほど言われました今までの成果についてということでございますけれども、19年度、20年度、21年度、22年度に分かれまして事業を進めてまいりました。21年度、22年度について報告をいたします。

市においてイノシシを捕獲するためのわなを購入いたしました。21年度市の単独での箱わなが24基、くくりわなという足わなが7基。協議会の箱わなが27基、くくりわなが13基でございます。22年度につきましては市単独の箱わなが28基、くくりわなはゼロでございます。協議会の箱わなとして17基、くくりわなが12基。19年から現在までの総計といたしまして、箱わなが137基、くくりわなが58基ということで、これらのわなにつきましては地元の猟友会に管理を委託しまして、被害等が寄せられました場所にわなを設置していただいて、徹底した駆除に取り組んでいるところであります。それと、農業者の耕作地に設置する電気さくの――。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） 捕獲頭数はわかりますか。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○経済振興部長（坂中 孝臣君） 捕獲頭数は現在のところ667頭を超えております。9月現在で417頭、10月の予定が250頭以上ということでございますので、上天草市では現時点で667頭を超えております。今回、12月補正で8,000円の40頭分で320万円を補正させていただいたという現状でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） 毎年捕獲頭数はふえていますよね。ただ、被害総額あたりはあんま

り減っていないと思います。その点を踏んで、例えば来年度の予算措置はどう考えているのかお聞きしたいと思います。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○経済振興部長（坂中 孝臣君） 天草市や苓北町にもお尋ねしましたがけれども、大体天草市での駆除頭数が1万4,142頭、苓北町で1,662頭、天草管内で1万6,591頭が現在駆除されておりますので、成育頭数としては捕獲頭数の数倍はいるのではないかとということでございますので、我々上天草市にとっても、本年度の倍頭数近くを捕獲するための金額は、来年度は確保しなければいけないのではないかと考えております。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） ソフト面での事業は、こういった事業を行う予定でありますか。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○経済振興部長（坂中 孝臣君） ソフト面につきましては、鳥獣被害防止総合対策交付金とか、地方の特別交付税の措置についてとか、いろんな面で措置ができるような状況も含めたところで、今後なるべく市の単独だけではなく、いろんな補助金を活用した対策をとっていききたいと考えております。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） 一応この事業対象として、捕獲の担い手育成のための狩猟免許講習会とか、箱わなは導入していますが、そういった部分もこういった講習会も開いて、猟友会の狩猟者をふやしたほうがいいのではないのでしょうか。そういった事業も行われておりますか。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○経済振興部長（坂中 孝臣君） 大体天草市については捕獲をされる方、狩猟許可を持っておられる方が結構おられます。しかし、上天草市の中には今、猟友会で資格を持っておられる方は30名しかおられません。しかし、これにつきましては今、県に講習に行っていただいて免許をとっていただくということでございます。そうするとなかなか行かれる方も少なくございますので、今後は狩猟免許の習得を希望される方があれば、何らかの形で上天草市あたりに講習をされる方たちに来ていただくことができるのであれば、そういうようなことで講習の場を設けていければと検討しております。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） こういったものの補助の対象は半額以上、これはどうなっていますか。あと交付金として、たしか戻ってくるんですよ。半分補助の、あとは交付税措置という形でたしか戻ってくるんですよ。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○経済振興部長（坂中 孝臣君） 先ほどの補助金の中身ですけれども、市の単独の認定農業者の場合につきましては事業費の2分の1で最高7万円まで、農業者の2戸以上のグループの方が申請された場合については事業費の3分の1で最高7万円まで、協議会では農業者3戸以上のグ

ループには事業費の2分の1で、限度額が国から査定を受けた金額ですので、それ以上になりますと打ち切りという形になってきます。そのような感じで今のところ申請をいただいております。対応をしている状況でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） この特措法あたりでは上限が200万円ですよね。広域連合型という部分でさらに220万円というのが上限で出ていると思いますけれども、天草市あたりと連携した補助申請はされていますか。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○経済振興部長（坂中 孝臣君） 今のところ、ソフト事業として上限が200万円、100%の補助ということで、捕獲わなの購入費とか講習会等のソフト面、ハード面でございますので、これは特別交付税の中に組み込まれることになっておりますので、協議会への今後実績といたしまして実施をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） ぜひお願いします。

もう時間がなくなりましたので、教良木で言われたことが、まず受益戸数が、例えば箱わなにしろ離れた場所で受益戸数は1戸でもできるかと、認定農業者外でもこれをしてほしいという要望がありました。これをお聞きします。

それとイノシシの目撃があったという連絡は、まず市役所にありますよね。それで、市役所から猟友会あたりにたしか行くと思うんですけれども、まず発見現場には市の職員が駆けつけてくれたほうが市民は安心すると。姫戸あたりでは臨機応変に市の職員が対応していたと思うんですけれども、諸機能を生かしてまずは近くの市の人間が現場に駆けつけてほしいという要望もありましたので、そちらについても臨機応変に対応していただきたいと思います。

まず、受益戸数は1戸でもできるかどうかお聞きします。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○経済振興部長（坂中 孝臣君） 先ほど申しましたけれども、2戸以上とか3戸以上とかというくりがございしますが、今、1戸ということでございますけれども、それを1戸にしましたら、結局大矢野町とかにつきましては割と農家が密集しておりますので1戸というところは余りないと思いますけれども、教良木とか龍ヶ岳の大作山とかいうのは1戸1戸なんです。そうしたらもう補助金も何も間に合いませんので、この1戸というのはやっぱり自分のところでどうにかしていただきたいと。しかし、2戸以上、3戸以上ということであれば、補助金等も使えるということでお願いをしたいと思います。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） 確かに補助というのは、個人に対しての補助はできないというのが行政のあり方でもありますけれども、本当に困っているんです。本当に困っているし、本当に

そうしてほしいからお願いをされたんです。ですから、そこら辺はもうちょっと知恵を回して。私は近くの人から言われたんです。ですから、対応していただきたいと思います。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○経済振興部長（坂中 孝臣君） 今、私たちの地域の中では棚田事業をしております。その中でうちの教良木の山浦地区につきましては、山浦地区を電気さくで全部囲っております。その中に8基電気さくを使っておりまして、それは最終的には米を収穫したら取り外します。その後についてはその8基がありますので、その1軒とか、自分たちがここを守りたいということであれば、それを個人の1軒でも2軒でも結構ですので、それをお貸ししているということで、そういう取り扱いをしていただければ。教良木地区の山浦地区ではそういう対策をしておるといふ状況でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） わかりました。1軒の場合は部長の名前を貸してでも、してあげてください。

もう時間もないのですが、加工施設の進捗状況は、私も協議会のメンバーに入りましたのでいいですけれども、今後メンバーの変更は考えておられますでしょうか。メンバーの構成を見たら、もっと必要ではないかと思う部分もあったもので、そこもお聞きしたいと思います。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○経済振興部長（坂中 孝臣君） 今のところ、プロジェクトチームの構成員といたしまして、経済振興部から3名、総務企画部が3名、市議会より3名、そして産業全体より4名ということで、13名の方で協議をしているような状況でございます。

以上でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） これはブランド推進協議会のほうですね。各組合団体の。もういいです、次に進みます。後で聞きます。

次の基盤整備事業です。こちらもかなり大規模ではなくて小規模で、今回の中山間の総合整備事業ということで推進していく部分だと思いますけれども、これは2戸以上で1ヘクタールを上回った場合で、事業面積の合計は20ヘクタール以上ということです。こういった部分も、仮に言えばイノシシ対策あたりで基盤整備をすれば、ある程度土地の有効利用もできると思うんですけれども、今農水課で、各地区で取りまとめをしておられると思いますけれども、現状はどういった状況でしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○経済振興部長（坂中 孝臣君） 21年度末で水田の35%、畑が27%となって、ほとんどの地区は大体10ヘクタール以上がまとまった地域でありまして、中山間における整備が、議員が言われたとおりにおこなわれているような現状でございます。

現時点で、本市では今後の農業生産基盤整備方針策の検討を行いまして、県の中山間地域総合

整備事業によりまして、上島地区に大矢野地区、下島地区として、松島、姫戸地区、龍ヶ岳地区の整備を現在検討して、現在各地区ごとに世話役さんになっていただいて、その方たちに事業内容とか要望の聞き取りを現在やっているような状況でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君。

○10番（川口 望君） まだ取りまとめた部分が出ていないということですね。わかりました。そういった部分でも、ある程度イノシン被害もあわせた整備も行政から進めていけば幸いだと思っております。

この各種フェアの開催に当たっての効果という部分で、クレアでやっております物産フェアで、実際に何が一番売れたのか、何が一番人気があったのかをちょっとお聞きしたいと思います。これは加工品でも、一次産品、何でもいいです。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○経済振興部長（坂中 孝臣君） 大体、今、上天草市の職員が経費を使って参加協力をしたイベントが何十回となくあります。その中で一番売れたというのが、結局いろんな方たちもいらっしやいましたけれども、やっぱり一番売れたのが、11月20日、21日に、さんぱーるほか14団体の方が二日間にわたって参加していただきました上天草フェア i n クレアで、119万3,000円ということで、それが一番でございました。

それと2番目が、熊本市の熊本びぶれす広場で68万4,000円。それと、その中には――。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長、商品として何が売れたかということ、時間が1分です。品目だけ二つ三つ上げてお願いします。

○経済振興部長（坂中 孝臣君） 梅肉ポーク、姫コッコの天草大王等、いろんな加工品でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 川口君、残り1分ですのでまとめてお願いします。

○10番（川口 望君） 済みません、私もばたばたしてしまいまして、もう何をまとめているのか私もわからなくなりましたが。

梅肉ポーク、姫コッコですね。結果的にはこういった事業は私ももっとしてほしいし、来年度も水前寺のほうでたしかやりますよね、上天草市の、名前が出てきませんが。特産品を外に売り出すと。ただ、結果的に上天草市という農産物の認知をどれだけ図れたかというのを、例えば消費者が一番わかります。ですから、その後例えばアンケートをとっていただいて、上天草市の物産に対して――。

○議長（堀江 隆臣君） 時間がなくなりましたので、簡潔にまとめてください。

○10番（川口 望君） 気持ちをさせていただくためにも、アンケートをとって、抽選で何名にまた再度プレゼントという形で、さらなるブランド推進をしておりますので、そういった部分も取り組んでいただきたいと思っております。

済みません、ばたばたしまして、最後早く終わるつもりが全然時間がなくなりました。本当にお疲れさまでした。

○議長（堀江 隆臣君） 以上で、10番、川口望君の一般質問が終わりました。

以上をもって、本日の議事日程は終了いたしました。

あす、9日は経済建設常任委員会、10日は総務常任委員会、13日は文教厚生常任委員会を開催しますので、関係委員会への出席をお願いいたします。

本日はこれにて散会いたします。

散会 午後 3時12分